

第12回 大 山 町 議 会 定 例 会 会 議 録 （第 3 日）

令和 2 年12月15日（火曜日）

議事日程

令和 2 年12月15日 午前 9 時30分開議

1. 開議宣告

日程第 1 一般質問

通 告 順	議 席 番 号	氏 名	質 問 事 項
8	1	森本 貴之	1. 通学路の防犯対策について 2. 自然と文化財・歴史を活用した観光振興とサイクルツーリズムの推進について
9	14	野口 俊明	1. 弱者対策をどう考える
10	5	大原 広巳	1. 防災対策について 2. 農家支援事業について 3. 引きこもり対策について
11	10	近藤 大介	1. 平成23年豪雪の教訓は生かされているか 2. 中山地区の活性化について
12	9	野口 昌作	1. 農家を救う農業経営収入保険に助成を 2. 交通安全に関する道路標示の点検と再表示を
13	13	岡田 聰	1. 来年度予算編成方針は 2. 空き家活用状況は
14	7	米本 隆記	1. 農家に手立てはないか 2. 成人式の実施は

本日の会議に付した事件

議事日程に同じ

出席議員（16名）

1 番 森 本 貴 之	2 番 池 田 幸 恵
3 番 門 脇 輝 明	4 番 加 藤 紀 之
5 番 大 原 広 巳	6 番 大 杖 正 彦
7 番 米 本 隆 記	8 番 大 森 正 治
9 番 野 口 昌 作	10 番 近 藤 大 介

11番 西尾寿博  
13番 岡田 聰  
15番 西山富三郎

12番 吉原美智恵  
14番 野口俊明  
16番 杉谷洋一

---

欠席議員（なし）

---

欠 員（なし）

---

事務局出席職員職氏名

局長 ..... 持田隆昌 書記 ..... 三谷輝義

---

説明のため出席した者の職氏名

町長 .....	竹口大紀	教育長 .....	鷺見寛幸
副町長 .....	小谷 章	教育次長 .....	前田繁之
総務課長 .....	山岡浩義	幼児・学校教育課長	田中真弓
財務課長 .....	金田茂之	社会教育課長 .....	西尾秀道
企画課長 .....	源光 靖	観光課長 .....	徳永 貴
福祉介護課長 .....	池山大司	建設課長 .....	大前 満
農林水産課長 .....	井上 龍		

---

午前9時30分開議

○議長（杉谷 洋一君） おはようございます。

ただいまの出席議員は16人です。定足数に達しておりますので、昨日に引き続き一般質問を行います。

これから本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、お手元に配付のとおりであります。

---

日程第1 一般質問

○議長（杉谷 洋一君） 日程第1、これから一般質問を行います。

通告順に発言を許します。

1番、森本貴之議員。

○議員（1番 森本 貴之君） 1番、森本貴之です。飛沫感染防止の距離が保たれておりますので、マスクを外して質問いたします。

本日は、2問質問を用意しております。通告に従って2問質問いたしますので、質問を読み上げます。

まず1問目に、通学路の防犯対策について質問いたします。

安心・安全な町であるために地域や関係団体などと連携し、多様化する社会の中で様々な犯罪等から住民の生活環境を守っていかなくてはなりません。安全な道づくり街灯設置事業により、道路利用者が安心して利用できるよう、通学路を中心に街灯の設置が進んでいる状況にあります。より安心・安全な町であるために、防犯対策のさらなる推進となるよう質問いたします。

まず1点目に、直近の大山町内で発生した不審者情報等に対する対策状況は。2点目に、通学路を中心に道路利用者の安心・安全のため防犯カメラの設置の検討を。以上、質問いたします。

○教育長（鷺見 寛幸君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 鷺見教育長。

○教育長（鷺見 寛幸君） おはようございます。

飛沫感染防止の距離が保たれているので、マスクは外させていただきます。

森本議員の御質問の1つ目、大山町内で発生した不審者事案に対する対策状況はについてお答えいたします。

御承知のとおり、今年度8月以降、町内数か所で不審者事案が発生しております。内容としては、声かけが1件、スマホ等による写真撮影が4件でした。その対策として、これまで琴浦大山警察署や教育委員会によるパトロールを行ってきましたし、大山町子ども見守り隊の皆さんの協力も随時お願いしてきました。発生時には、保護者へのマチコミメールや防災無線、文書等で周知を図ってきました。

2つ目の通学路を中心とした防犯カメラの設置についてお答えします。

防犯カメラについては、現在のところ町内通学路には設置されていません。カメラを設置すれば、犯罪を未然に防ぐ効果が期待できますが、一方で不特定多数の住民を撮影することとなり、被撮影者のプライバシーを侵害するおそれがありますので、説明会を開くなどして住民の理解を得る必要があると考えます。また、町内の通学路は非常に広範囲であり、限定的に設置したとしてもかなりの台数の設置が必要になります。費用対効果の面を考えても、現時点では設置は難しいのではないかと考えます。

以上で答弁とさせていただきます。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 竹口大紀町長。

○町長（竹口 大紀君） おはようございます。

一般質問2日目、どうぞよろしく申し上げます。

私も、対策が取られておりますので、マスクを外して答弁をさせていただきたいと思っております。

森本議員の御質問に関しましては、先ほど教育長が答弁したとおりでございますので、それをもって答弁とさせていただきます。

○議員（1番 森本 貴之君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 森本議員。

○議員（1番 森本 貴之君） 御答弁いただきました内容について追加質問させていただきます。

まず、1点目の、直近の大山町内で発生した不審者情報等に対しての対策状況ということで追加させていただきたいと思います。

答弁の中にもありました今年度8月以降の発生件数、その内容が答弁の中にされておりますが、声かけ1件、スマホ等による写真撮影が4件ということでありました。これについては、関係機関と協議、それから地域の関係団体の皆さんのパトロールで行っているということでしたが、少し気になることが、この防犯対策を進めていくに当たって、その発生した事案の内容の状況の精査、これがどれぐらいできているのかなということに少し疑問がございます。そこをちょっと質問したいと思いますが、例えばこのスマホ等による写真撮影というものが発生しています。地域の関係団体の皆さんとこういった防犯対策の協議をする上で、どのような対策を講じていかなければならないのか、その議論のポイントを御説明させていただきたいと思います。

○教育長（鷺見 寛幸君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 鷺見教育長。

○教育長（鷺見 寛幸君） お答えいたします。追加があれば担当から説明をいたします。

特に5件のこの不審者事案について、共通点があるかないか、そしてまた、同一人物かどうかというあたりを情報共有をまず行います。そしてあと学校に対する指導といたしますか、学校から児童生徒に対して防犯意識を高める教育をしていただくと。そして住民の皆さんとは、住民の皆さんが何を、どんな役割を担っていただけるのかというお願いといたしますか、こちらから働きかけを行いまして、学校、そしてまた、保護者にも協力をいただかないといけません。そして関係機関、そして住民の皆さん、子ども見守り隊をはじめまして、住民の皆さん方、それぞれの役割を確認するとともに、この事案についての共通理解ですね、内容がどのようなものだったか、どういう事案だったのかというのを皆さんが同じように共通理解をした上で、今後の対策を練っていくという部分であるというふうに考えます。

○教育次長（前田 繁之君） 議長、教育次長。

○議長（杉谷 洋一君） 前田教育次長。

○教育次長（前田 繁之君） 追加で少し話をさせてください。事案が発生しましたら、まず私どもが確認するのは、個人情報保護も考えます。まず、保護者をお願いするのは、この情報を広く県内に周知してよいかどうか、まず保護者と考えます。保護者の承諾が得られれば、私どもは県の教育委員会に報告をします。で、県の教育委員会は、全県に、大山町で不審者事案が起こったということを周知していきます。大体1日か翌日ぐらいまでには県内の全ての小・中学校に周知されていきます。

今回の町内の件でも、不確かな部分も確かにありました。本当にスマホを向けたのか

どうか、その辺も定かでない部分もあったんですけども、琴浦大山警察署と協議しまして、空振りでもいいから住民に積極的に知らせようという協議をしまして、いろんな方法を取って周知してまいりました。以上です。

○議員（1番 森本 貴之君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 森本議員。

○議員（1番 森本 貴之君） このような不審者等に対する防犯対策についてですが、県のほうでも、通学路等における児童等の安全確保に関する指針というものが平成21年3月26日に策定され、一部変更されて令和2年3月25日から新たにこの指針が示されておるわけですが、その基本的な考え方の中に大きく分けて3項目上げられておりますが、この基本的な考え方3点目に、この指針は、社会状況の変化、技術の進展等を踏まえ、必要に応じて見直しするものとするという項目が含まれておりますが、先ほど答弁の中に、スマホ等で撮影をされた。ただ、それが不確かな情報であったが、空振り覚悟で対策を打ちましようということで情報公開に踏み切ったということでありましたが、本町は基幹産業の一つでもあります、観光の産業がございます。

このスマホで撮影された時期は、恐らく11月初旬から中旬ぐらい、まさに紅葉の見頃であったと思うわけですが、今、先ほども上げました技術の進展等を踏まえというところで、スマホのカメラ機能の向上が進んでおります。観光の魅力として、紅葉の大山を見に来た方が手軽にスマートフォンを取り出して景色を撮影して帰りたい。この不審者情報があったときも、恐らく紅葉の見頃の時期が真っ最中、そして裾野のほうにも紅葉が広がりつつあった時期であったと思いますので、広く景色を写して帰られる方もいたんじゃないかなと思います。関係団体と防犯対策に対して協議をする上で、本町におきまして、そういった観光ニーズ、どういったニーズがあるのか、その辺の情報収集も必要ではないかと私は思うわけですが、どのようにお考えになりますでしょうか。

○教育長（鷺見 寛幸君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 鷺見教育長。

○教育長（鷺見 寛幸君） お答えいたします。

私も、今までの経験、子供たちを連れて歩いていて、カメラを向けられたなというふうに思って、どうしてカメラ写したんですかって聞こうとしたら、その方は恐らく仕事上だったと思うんですけど、電柱の番号を写しておられました。何か電柱の関係の仕事だったんじゃないかなと。たまたまずっと後ろに私たちが歩いていたので、てっきり写されたなと思ったんです。またあるときは、スマホを持っておられた方があって、何か写しているなと思ったんですが、後ろに大山があったというようなこともありまして、特に大山町内は夕日が美しいとか、景色が美しいというのがありまして、そういう場面があると思います。

今回の不審者事案の共通点といいますのは、1つは下校時、全て下校時に起こってお

ります。どうしても登校時は、集団登校でまとまった子供たちが歩いていたりしますし、それから見守り隊の方、交通安全の方が各所に立っておられます。非常にその登校時はなかなか不審者にとって動きにくい時間帯なのかなと思います。ただ、下校時になると、学年ごとに帰る時間が異なっていたり、上学年、下学年でまた異なっていたりして、割とばらばらと帰っていく時間帯です。やっぱりこの帰る時間に全て起こっているというのが、やっぱり中には本当の不審者がいたんじゃないかなというふうに考えるわけです。

先ほど次長も言いましたが、空振りでもいいから、やっぱりすぐにこう、子供たち逃げたりとかしてるんで不確かな状況もあるんですが、空振りでもいいからそういった報告は上げているわけです。

先ほど森本議員が言われた観光へのニーズという部分ですが、町内のこの不審者事案も大山地区、名和地区、中山地区、広範囲にわたっています。やはり中には景色のよさそうな部分もあります。やはりおっしゃるとおり、そういった部分での協議も必要ではないかなというふうに考えております。

○議員（1番 森本 貴之君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 森本議員。

○議員（1番 森本 貴之君） こういった防犯対策は、空振りを恐れて振らないということでは何かあってからでは遅いので、私もその辺を否定して質問しているわけではないので御理解いただきたいと思います。そういった社会背景等の変化も踏まえた上で、的確に情報をキャッチして、住民の皆さんにより安心できる防犯体制を取っていただきたいという意図からこのような質問をしておりますので、よろしくお願いします。

それでは、それと絡めまして2点目、防犯カメラの設置についても質問させていただいておりますが、答弁の中にもございます、プライバシーを侵害するおそれ、それから通学路、非常に広範囲で限定的に設置したとしてもかなりの台数が必要であると。私もこの辺、広くカバーすればかなりの台数必要であると思いますので、その辺ちょっと絞って再質問したいと思います。

先ほども申しあげました通学路等における児童等の安全の確保に関する指針の中で、通学路における安全な環境の整備ということで、通学路に関する部分の指針も示されております。子供に対する犯罪発生の危険性が特に高い通学路等への防犯ベル、防犯カメラまたは警察に対する通報装置の設置というものがございます。例えば、広範囲にわたって防犯カメラを設置するとすると、安全性の高い通学路にもお金をかけて、またプライバシーの侵害というリスクも兼ねて設置していくのかということもありますので、例えばこの指針の変更で、通学路において人や車の通りが少なく、児童が一人で歩く場所または登校時集合場所、スクールバスの停留所等人が集まる場所でない場所、大人の見守りの活動がないですとか、そういったいわゆる見守りの空白地帯というところにまずはスポットを絞って安全確保を図ってみてはいかがかなと思うわけでございます。現状、本町において通学路内見守りの空白地帯というものの発生状況は、いかに把握しておられ

ますでしょうか。

- 教育長（鷺見 寛幸君） 議長。
- 議長（杉谷 洋一君） 鷺見教育長。
- 教育長（鷺見 寛幸君） 担当よりお答えいたします。
- 教育次長（前田 繁之君） 議長。
- 議長（杉谷 洋一君） 前田教育次長。
- 教育次長（前田 繁之君） お答えします。

大人の見守りがない空白地帯ですけども、町内、これまでしっかり考えたことは申し訳ないですけどありませんでした。ただ、今考えてみますと、物すごく広範囲じゃないかなと思います。例えば、子供たち複数で帰るように学校では指導していますが、やっぱり家の近くになれば一人になります。その時間帯に大人がいるかと、近くに、近所に大人がいて見守っている状況であるかと言われたら、そうではない状況が多いように思われます。スクールバスでバス停まで行きますけども、バス停を降りた後も一人で歩く状況は出てきています。ですので、山のほうでも海のほうでも、一人で歩く場所は無数にあるなというふうに感じています。以上です。

- 議員（1番 森本 貴之君） 議長。
- 議長（杉谷 洋一君） 森本議員。
- 議員（1番 森本 貴之君） 改めて、そういった見守りの空白地帯の把握を早急に努めて取り組んでいただきたいなと思います。それに取り組んでいくに当たって、例えば広範囲ですんで、こういった場所に絞っていくべきかなというのが考えていかななくてはならないポイントだと思うんですが、質問の通告にもありましたように、安全な道づくり街灯設置事業によって非常に明るくなった通学路も増えております。その中で、ながら見守りという言葉がありますが、例えばジョギング、買物、ウォーキング、犬の散歩とか、非常に住民の方の動線が多い場所というのは、地域と協力しながら防犯意識の啓発を図って、住民の方々の行動の中で見守っていただく活動、そういった動線が描けるであろう通学路でない場所が、いわゆる見守りの空白地帯になってくるんじゃないかなと思いますので、防犯カメラの設置ということ、ポイントを絞りながら、財政面でも工夫しながら、より安全・安心な通学路の確保という視点で検討を進めていただきたいと思いますが、その辺について御答弁いただいて、1問目の質問は終わりにしたいと思います。

- 教育長（鷺見 寛幸君） 議長。
- 議長（杉谷 洋一君） 鷺見教育長。
- 教育長（鷺見 寛幸君） お答えいたします。

森本議員御指摘のとおり、どうしても目の届かない部分があると思います。その辺りは学校が安全点検で通学路を点検しております。学校とも協力しながら、どこの部分が一番目につきにくいところか、じゃあそこをどう安全を確保していくのかということ

学校や、また地域の方々とも相談しながら、前向きに検討していきたいというふうに考えております。以上です。

○議員（1番 森本 貴之君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 森本議員。

○議員（1番 森本 貴之君） それでは、2問目の質問に移りたいと思います。

2問目の質問は、自然と文化財、歴史を活用した観光振興とサイクルツーリズムの推進について質問いたします。

海から山を有している本町の自然と誇るべき文化財と歴史の魅力を重要な観光資源とし、基幹産業である観光と商工のさらなる推進を図っていかなくてはなりません。文化・歴史に触れるとともに、自然のフィールドを生かしたアクティビティの推進につながるよう質問いたします。

まず、1点目に、町内の観光をより推進するために、東西南北の観光的動線をつくり、面的に発展させるための取組状況は。また、商工会との連携の状況は。2点目に、ジャパンエコトラックルートとナショナルサイクルルート認定を見据えた、本町としてのサイクルツーリズム推進の現在の取組状況は。以上、2点お聞きします。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 竹口大紀町長。

○町長（竹口 大紀君） 森本議員からの2つ目の御質問にお答えします。

まず、町内の観光をより推進するために、東西南北の観光的動線をつくり、面的に発展させるための取組状況は。また、商工会との連携の状況はという御質問については、これまで大山町へ訪れる観光客の多くは、大山周辺の施設を利用されていましたが、今後は、お客様が海側も周遊していただける取組が重要であり、周遊の拠点となる工夫が海側にも必要であると考えております。

引き続き大山周辺の観光誘客を図りつつ、海側への誘客を強化することで、町内に太い動線が生まれ、さらには、アウトドアフィールドとしての大山のブランディングが進み、事業者の所得向上や新たな事業の創出につながることで、大山町の面的な発展に寄与するものと考えております。そのためにも、商工会とは、より一層の連携を図りながら事業に取り組んでいきたいと考えております。

次に、ジャパンエコトラックルートとナショナルサイクルルート認定を見据えた本町としてのサイクルツーリズム推進の取組状況はという御質問にお答えします。

ジャパンエコトラックルートは、今年3月に大幅なリニューアルが行われました。これまでのルートは、県西部地区のみに所在していましたが、新たに鳥取県を東西に横断する鳥取うみなみロードがルートに加わり、今後はより全県的な取組が期待される所です。

ナショナルサイクルルートの指定要件には、100キロメートル以上の距離が必要であることなどから、鳥取うみなみロードが鳥取県におけるナショナルサイクルルート検



討のベースになるものと認識しております。

本町内に所在するジャパンエコトラックルートは、鳥取うみなみロードと容易に接続が可能なルートとなっており、ナショナルサイクルルート認定を見据えて、これらのルートの見直しや再整備を検討しております。

また、現在、町内事業所へのバイクラック等の設置を進めており、文化歴史資産を活用したサイクルツーリズム推進事業費補助金の活用もいただきながら、サイクリストが立ち寄りやすい飲食店を増やすとともに、レンタサイクルやサイクリングガイドを行う事業者を増やしていきたいと考えております。

以上で答弁とさせていただきます。

○議員（1番 森本 貴之君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 森本議員。

○議員（1番 森本 貴之君） それでは、幾つか再質問させていただきたいと思います。

まず、1点目にお聞きした東西南北の観光的動線をつくり、面的に発展させていくというところで、幾つか再質問させていただきたいと思います。

以前、昨年6月だったと思いますけども、私も観光発展のビジョンについて一般質問させていただいたときに、それぞれ東西のルート、それから南北のルート、これらをつないで発展させていくんだという内容の答弁をいただいたのを記憶しておりますが、今回はその具体もさらにお聞かせいただきたいと思いますと思っております。先ほど答弁にもありました、海側への誘客を強化することで町内に太い動線が生まれるということで答弁されております。海側への誘客を強化するというのは、具体的にはどのようなことを進めれば海側に太い誘客の動線が生まれるとお考えになるのでしょうか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

海側にこういった拠点となる工夫が必要かということですが、何かのツーリズムを推進するに当たっては、一番は、集客人数というよりは滞在時間だと思います。いかにそのエリアに滞在していただく時間を増やしていくか、それを実現するための工夫が必要ではないかなというふうに思っています。例示をすると、それが独り歩きするんであまり例示すると難しいんですが、例えば宿泊施設、これは行政でやるべきものではなくて、民間の投資によるべきものだと思いますが、宿泊施設ができると滞在型の周遊観光ツーリズムが推進できると思いますし、施設型の宿泊でなくても、例えばキャンプ場の整備で簡易にそこで寝泊まりしていただけるようにするだとか、いかにそのエリアで滞在していただく時間を増やすかによって、当然消費額も変わってきますし、周りの事業者への影響も変わってきますので、目標とすべきは集客人数ではなくて一人一人の滞在時間の延長をいかにするかというところだと思います。そういった目的を持って、こういったものが海側に必要なのかというところは、今後内部で、あるいは外のいろん

な団体、事業者、関係者と協議しながら、連携して進めていきたいというふうに思っています。

○議員（1番 森本 貴之君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 森本議員。

○議員（1番 森本 貴之君） 今、例えばというところで例示をいただきました。そういった中に、滞在時間を増やす取組、これ観光誘客を図っていくには、滞在時間をいかに延ばすかということは、もう当然、本町のみならず、様々な観光地で工夫されておるところだと思えます。今回の質問にも、自然と文化財・歴史を活用した観光振興という題目で通告しております。例えば、海側を太い動線を描こうとしたときに、滞在時間を増やす、あるいは来訪者を満足させる、そういった視点で文化財・歴史の活用、これ見込まれる海側での主なもの、こういったものが考えられるのか、聞かせていただきたいと思えます。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

山側でなくて海側の文化・歴史的資源ということですが、大きいものでいえば所子の伝建地区であったり、名和地区の名和長年、後醍醐天皇の関係する文化的な資産、歴史的な資産、こういったものもありますし、様々町内に点在していますので、その点に在している文化的・歴史的資源をいかにつないでいくかということだと思えます。

ただ、これは、そこに来る人がいて初めて生かされるものであって、今それを目的として集客ができていない状況ではありませんので、それぞれの文化的・歴史的な地域の資源というのは磨き上げをしながらも、それ以外で全体的な周遊していただくお客さんのパイを増やしていく、そういうような取組が必要ではないかなというふうに思っています。

○議員（1番 森本 貴之君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 森本議員。

○議員（1番 森本 貴之君） そういった取組を推進しながら、まずもって大事なのが、今回といいますか、今年度まで様々機構改革についての意見なんかも議会を中心に出ているわけですが、まさに観光の動線、それから商工との連携、これまさに大事なポイントになってくるんじゃないかなと私も思うわけですが、例えばそういった、まずは人が来てもらわなければ始まらないということは当然ながら進めていただきたいと思えますし、例えば人が来たときに、そういった滞在時間を延ばしていただけるような仕組みが出来上がってなければリピートにつながらないということも考えられますので、ぜひとも受皿的な部分、ここをしっかりと見ていただきたいなと思うわけですが、そういった観光的な施策の視点と商工部門を持たれる企画との連携、これは今どのような状況にあられるのか、御説明いただきたいと思えます。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

企画と観光の連携ですけれども、これは先般、議会のほうからもいろいろ御指摘をいただいておりますし、内部でも連携をさらに強化するように努めているところであります。商工の部門と観光の部門、分かれているというような御指摘もあるわけですが、これはほかの何の事業でも同じですが、一つの仕事を一つの課で全て完結するというのは非常に難しいところがあって、どんな事業であっても縦割りにならず横のつながりをしっかり持って、各課が連携して事業を進めていくことが大事であろうというふうに思っていますので、観光と商工のみならず、それぞれの分野において必要な連携は、横のつながりをしっかり持って進めていくように、日々管理職あるいは職員に向けて発信しているところでございます。

この観光の推進という部分においては、当然戦略的に中心となって行っていくのは観光課であります。商工の分野で全く何も観光課が考えずにするということではなくて、観光の最終的な目標は何なのか。人がただ来ればいいのか。そうではない。そうではなくて、経済的に潤う、そういうような目標を持って観光課もやっているわけですから、商工の概念を置いて観光課が仕事をしているということではありません。しっかり商工のことも念頭に置きながら事業を進めているところでありますし、必要があれば企画とも綿密な連携を図りながら進めているところでございます。

○議員（1番 森本 貴之君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 森本議員。

○議員（1番 森本 貴之君） それでは、サイクルツーリズムをどう活用していくのかというところに少し結びつけていきたいなと思います。

先ほど答弁の中にございました、歴史資産を活用したサイクルツーリズム推進事業費補助金の活用もいただきながらということで答弁がございました。現在までのこの大山町文化歴史資産を活用したサイクルツーリズム推進事業費補助金に対しての問合せ、あるいはそういった実績など、件数が分かりましたらお答えしていただければと思います。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） 担当からお答えいたします。

○観光課長（徳永 貴君） 議長、観光課長。

○議長（杉谷 洋一君） 徳永観光課長。

○観光課長（徳永 貴君） お答えいたします。

まだ、利用実績はございませんですけれども、相談件数としては5件現在上がっており、各事業所なりで御検討いただいているという状況でございます。

○議員（1番 森本 貴之君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 森本議員。

○議員（1番 森本 貴之君） 実績がまだないということについての要因、課題等どのように認識しておられますでしょうか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 町長。

○町長（竹口 大紀君） 担当からお答えいたします。

○観光課長（徳永 貴君） 議長、観光課長。

○議長（杉谷 洋一君） 徳永観光課長。

○観光課長（徳永 貴君） どのような要件というところがございますが、御相談いただきまして、来ている補助金の内容なりを説明させていただいております、それぞれ各事業所さんがそれぞれ内部のほうで御検討されているという状況でございます、我々のほうではどういった要件かというところは、そこまではちょっと把握はしていない状況でございます。

○議員（1番 森本 貴之君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 森本議員。

○議員（1番 森本 貴之君） こういった歴史資産を活用して観光を推進していくという町のビジョン自体が見えにくいからではないでしょうか。実際に文化・歴史資産を活用することによってどのように観光が推進されるのかという軸をぜひとも行政が具体的に示していただいて、事業者がそれを積極的に活用していくんだという流れをぜひとも生んでほしいわけですが、どのようにお考えでしょうか。

○議長（杉谷 洋一君） 町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

森本議員御指摘のとおり、確かに分かりにくい部分があると思いますので、もっと分かりやすくしていきたいというふうに思います。

○議員（1番 森本 貴之君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 森本議員。

○議員（1番 森本 貴之君） ぜひともこういった補助金制度も有効に生かして、サイクルツーリズムの推進、そして文化財・歴史資産等を活用した観光の推進につながるよう進めていただきたいというふうに思います。

それでは、サイクルツーリズムを推進するに当たって、やはりどのようなサイクルートを設定して、サイクリストの方いかに満足してもらえるか、また、走ってみたい、それから口コミであそこのサイクルルートはよかった、景色がよかったと、いかに発信してもらえるようなサイクルルートの設定をしていくかということでございます。そこに関しましては、今、答弁の中にもありましたジャパンエコトラックルートでうみなみロードというものが接続可能なルートとして捉えられておりますが、ナショナルサイクルルートの認定を前提にですけれども、このうみなみロードは主に東西の海側の動線に広

がるものだと理解しております。

ここから、例えばこのうみなみロードを、本町の海沿いを通っていくときに、どのようなルートを通して東のほうに向かっていっていただくのか、海沿いですね、例えば道路の整備、ハード面の整備ですね、こういったことをどのように進めていくのか、この辺は県議会のほうの一般質問でも何度か取り上げられておりますが、そのときの知事の答弁の中にも、サイクルルートをさらに充実していくという意味からすると、それぞれの主体が協力しなければならない。道路の仕組み、車道を走るというサイクリングルートもあったり、いろんな道路環境の状況がありますので、それぞれの自治体がどのような視点を持ってサイクルルートを設定していくのか、この辺のハード整備についても、やはり地元が主体となって、こういったルートをつくるんだという計画が最も大事になってくると思うんですが、そういった意味で本町を走っていくうみなみロードのハード面の整備、具体的な計画等、本町の魅力を最大限に生かすような検討、どのような中身があるのか、ちょっと教えていただきたいと思います。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） 担当からお答えいたします。

○観光課長（徳永 貴君） 議長、観光課長。

○議長（杉谷 洋一君） 徳永観光課長。

○観光課長（徳永 貴君） お答えさせていただきます。

うみなみロードの整備とかというところがありますけれども、まず、本町についても、現在、中山ルート、名和ルート、大山口ルートというところで、ジャパンエコトラックの地図のほうに載せさせていただいております。そういったところで、我々観光課だけではできない事業でございます。当然、道路になりますと、国、県、そして町の建設課と協議しながら、自転車の走りやすい環境を提案していきたいなという具合に思います。

○議員（1番 森本 貴之君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 森本議員。

○議員（1番 森本 貴之君） 自転車の走りやすい環境というものがどういったものなのか、しっかり検討していく必要があると思います。例えば、海沿いのサイクリングルートを整備していくに当たっても、例えば街灯の設置等をしていただければ、1問目の質問に多少結びつくところがあるかと思えますけれども、防犯面でも、そういった道路インフラの整備が充実していけば、町内の安心・安全な暮らしの環境にも一つつながる部分があると思います。こういったところを点で見るのではなく、面的に本町としてどのような影響があるのか、ぜひとも考えていただきたいと思います。その辺についてどのようにお考えでしょうか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

先ほどの質問の中で、鳥取南ロード、東西を走る線、この話でインフラの整備ということがありましたが、森本議員も自転車で走られるかもしれませんし、私も自転車で走りますけども、国道9号をやっぱり走ってみると、路肩が広いところがあったり、狭いところがあったり、あるいは歩道が未設置の部分が、阿弥陀川の部分であったりとか、いろいろ走ると走りにくいなと思うところが多々あります。こういったところは国交省のほうにいろいろと要望をして、改善ができないかというところは声を上げていってまでするので、恐らく近いうちに何か改善が図られていくのではないかなというような空気感を感じております。

また、縦線においては、大山町内から大山に向かう県道、ここは一昨年、県のほうに要望を上げ始めたら、すぐに要望を酌み取っていただいて、今、路肩拡幅の工事、ちょっと通行の方には御迷惑をおかけしているところがあるかもしれませんが、路肩の拡幅で、冬場は堆雪帯にして、グリーンシーズンは自転車が走れるような通行帯にしていくと、こういう路肩が狭い整備があまり進んでない区間というのが、エコトラックルートに認定されているルートの中にも幾つもありますので、そこは、実際にそこを走ってみてどういう整備が必要なのかというところはやっていかなければいけないというふうに思っています。

また、東西を走る線で、国道9号等を想定されていますけども、大山町内でいえば、旧国道で街道のほうに下りて入っていただくとかいうようなことも考えられると思いますし、そうすることによって、また自転車の、サイクリストの流れも変わってくると思います。いろいろ考えられる工夫はあるわけですが、実際に自転車で走られる方がいかに走りやすいかというところが、景観も大事ですが、その地域で自転車で走ったことに対する感動ですとか、体験、記憶だと思しますので、走りやすい環境整備を引き続きしていきたいというふうに思っています。

○議員（1番 森本 貴之君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 森本議員。

○議員（1番 森本 貴之君） ぜひとも本町を走っていただくサイクリストの方に見ていただきたい、感じていただきたいというところを具体化して、本町の魅力をこのサイクルツーリズムに存分に発揮していただきたいというふうに思います。

今、お話ししたのは東西の線でございます。これサイクリストの聖地化事業ということで、大山時間さんが取り組んでいる取組の中に、このナショナルサイクルルートの認定というものも目標に掲げられております。このナショナルサイクルロードは、鳥取うみなみロードも一部関係するところではありますが、その主な部分としての想定は、恐らくこれは南北の線、海のほうから山のほうにつながる線、これがナショナルサイクルルートの認定に向けた目標のコースであるというふうに理解しておりますが、この南北の線を結ぶとき、このナショナルサイクルルートというのは、主に歴史的な観点から日

本の魅力を感じてもらおう、主にインバウンド向けのサイクルルートの設定になっているというふうに理解しておりますが、このナショナルサイクルルート認定を見据えた南北の動線、この辺について、例えば滞在時間を増やす、サイクリストの方に休憩を取ってもらえるポイント、それから歴史的な魅力を感じてもらえるような動線の描き方、本町の観光といたしまして、どのようなことに課題を感じておられて、どのような整備が必要なのか、その具体的などころを御答弁いただきまして、質問を終わりたいと思います。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

サイクルツーリズムを推進するに当たっての本町の課題としては、1番は、先ほどお答えしたとおりで、走りやすい環境が万全ではないというところだと思います。狭い道路、車とかなり接近して走らなければいけない部分、こういったところが多ければ、当然サイクリストは安心して走れないわけですし、景色を見ながら走ることもままならない、そういう状況にあると思いますので、インフラの整備としての道路環境の整備、あるいは自転車道の整備というところまでいかないかもしれませんが、自転車の通行帯の整備というところも視野に入れながら、改善を図っていく必要があるのではないかなというふうに思っています。

インフラがあれば、当然ストック効果でそこを利用する人が増えて、周りの経済循環に寄与するということが当然あるわけですから、そういったことを見据えながらインフラの整備というのはしっかり、力を入れてやっていきたいなというふうに思っております。

それ以外の部分で言えば、周辺の事業者と連携をしながら、ソフトの分をつくるのは行政というよりはやっぱり事業者だと思いますので、いかにそのもうけが出るように、採算が合うようにソフト事業を展開していただけるかということが重要になってきます。そのためにも、また同じ話になりますけれども、環境整備、条件整備、インフラ整備というところをしっかりと行政がやることによって、その効果を受けて民間事業者がソフトでさらに満足度を高めていく、こういうような連携の仕方が必要ではないかなというふうに考えておりますし、今後もそのように進めていきたいというふうに思っております。

○議員（1番 森本 貴之君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 森本議員。

○議員（1番 森本 貴之君） 終わります。

○議長（杉谷 洋一君） これで森本貴之議員の一般質問を終わります。

○議長（杉谷 洋一君） ここで休憩いたします。再開は10時30分です。

午前10時20分休憩

午前10時30分再開

○議長（杉谷 洋一君） では、再開します。

次に、14番、野口俊明議員。

○議員（14番 野口 俊明君） それでは、一般質問をさせていただきます。

私は、今回は、弱者対策をどう考えるということで質問いたします。

県や市町村、警察は、高齢者の事故防止や安全のために免許返納を奨励しております。しかし、返納者の皆さんの話によると、いろいろな点で大変不自由になったという声を聞きます。元気な高齢者の方にもぜひ返納をとというのは本当にいいことなのか、疑問に思う点もあります。返納をして田畑の管理ができなくなったとの声もあり、また、電動カートにしても、アシスト自転車でも、老人車にしても、荷物が載せられない、載らないということでもあります。それによって畑の草刈りもできない、作った作物も運べない、人も作ってくれない、結果的に耕作放棄地になってしまうというような現実もあるように聞いております。

物を買えば済む問題ではないと思うが、高齢者世帯や独り暮らしの方たちは、これが現実だろうと思う。返納後や免許のない皆さんは道路を歩くことになるのでありますが、歩きやすい道や歩道のみではないので大変苦勞されております。そこで、町の管理状況や対策をどうしているのか、どうなっているのかをお伺いします。

まず、1点目として、国道、県道についての安全対策はということで、特に歩道や横断についてどのようにしておられるのか、より詳しくお伝え願いたいと思います。

2番目に、町道の安全対策ということで、幅員やのり肩、ガードレールについてもお聞きしたいと思います。

3つ目に、ドア・ツー・ドア型の共助交通の考えはということでお聞きいたします。これについて、登坂とか待合所の考え方もということで答えていただければ幸いです。

4つ目に、電動カート、アシスト自転車、老人車購入補助金を新設してはどうかということでお伺いいたします。町として、若者対策は結構しておられると思います。幼児から学校を本当に卒業するまで、いろんな面で補助金、補助等も出しておられるわけですが、ぜひこの老人のほうにも少し目を向けて行政もやっていただければと思うわけでありませう。

また、5点目として、教育長には、特に登下校の安全状況をどう考えているのかをお伺いします。これについて、先ほど森本議員にもいい答弁もあったようではありますが、私のほうにもまた、観点が少し変わった方向でお願いします。

6点目、こういう方々の農地に対して、本当に耕作放棄地というものがたくさん増えておるわけですが、これについての考えで、この方々の農地に対しての町の考えはということと、そしてこれについて、耕作放棄地の面積の大小によっていろいろ町の



対策の違いがあるのではないかと思うんですが、そこら辺を詳しく教えていただきたいということでもあります。以上、お伺いします。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 竹口大紀町長。

○町長（竹口 大紀君） 対策が取られておりますので、マスクを外して答弁させていただきます。

野口俊明議員の弱者対策をどう考えるかという御質問にお答えします。

1点目、国道、県道についての安全対策ですが、町の対応としては、車道や歩道の通行に支障があると確認された場合、速やかに国道、県道の各道路管理者に通報を行い、対応していただいております。

2点目、町道の安全対策ですが、路面に損傷があれば修繕を行うとともに、路肩の除草や道路除雪を行い、道路を常時良好な状態に保つよう維持し、一般通行に支障を及ぼさないよう努めております。ガードレールについては、防護柵設置基準に基づき設置をされており、損傷箇所については計画的に修繕を行うこととしております。

3点目、ドア・ツー・ドア型共助交通の考えについては、共助交通は、地域住民の互助や共助といったボランティアにより行われるものであり、その位置づけはサービスに限りのある公共交通を補完するものと考えております。また、共助交通は住民主導で行われ、乗降場所をはじめとする諸条件は、各運行主体が利用対象との関係性の中から判断され、決定されるものであると認識しています。

4点目、電動カート、電動アシスト自転車、老人車購入補助金を新設してはどうかとの御質問につきましてお答えいたします。電動カート・電動車椅子につきましては、一定の介護認定を受けた方や障害者で移動に支障のある方が利用される場合、介護保険制度や障害福祉サービスにより給付を行っています。老人車の補助制度はありませんが、歩行に対するサポートが必要な方に対しては、介護保険の給付により、その方に合わせた歩行器等をレンタルしていただくことが可能です。電動アシスト自転車につきましては、本町の坂道の多い地形や目的地が遠いこと、操作に慣れる必要があること、またスピードもある程度出ることなどを考えますと、介護保険や障害福祉サービスとしては推奨できませんが、体力づくりや地球温暖化対策として、電動アシスト自転車を含む人力の交通手段を推奨することは可能だと思います。

5点目の登下校の安全状況については、教育長がお答えします。

6点目の、この方々の農地に対して町の考えは。そして放棄地の面積の大小によっての違いがあるかとの御質問であります。耕作放棄地につきましては、平成27年度121ヘクタール、平成28年度87ヘクタール、平成29年度117ヘクタール、平成30年度89ヘクタール、令和元年度84ヘクタールと、減少傾向となっております。農地の大小によって耕作放棄地の影響もあるとは思いますが、耕作放棄地となってしまうのは、日当たりが悪い、排水が悪いなどの農地の立地条件や耕作者がいなくなった場

合など様々な要因が考えられますので、一概に面積の大きさだけによるものではないと思います。

大山町の農業振興のためにも耕作放棄地を増やさないようにするために農業委員会に相談し、貸し借りをするなど農地の管理をお願いしたいと思います。

以上で答弁とさせていただきます。

○教育長（鷺見 寛幸君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 鷺見教育長。

○教育長（鷺見 寛幸君） 私もマスクを外させていただいて、答弁をさせていただきます。

野口議員の5つ目の御質問、登下校の安全状況についてお答えいたします。

小・中学生の登下校の安全については、毎年安全点検を実施し、学校や警察署、国や県、町の関係者とともに現地視察をする中で、可能な限り改善策を考えてきました。また、各学校PTAからの要望に対しても毎年協議を重ねてきました。その結果、町内幾つかの場所で改善されてきた場所もありますが、いまだ改善されないまま残っている場所もあります。特に歩道の狭さや街灯がなく暗い道、樹木や雑草などによる見通しの悪さなどが改善箇所になります。県や国交省などにも働きかけながら、努力してまいりたいと思います。

以上で答弁とさせていただきます。

○議員（14番 野口 俊明君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 野口議員。

○議員（14番 野口 俊明君） 今いろいろ答弁いただいたわけではありますが、まず1点目の国道や県道についての安全対策についてということでお伺いして答弁があったわけではありますが、ここの答弁の中で、車道や歩道の通行に支障があると確認された場合、速やかに国や県の道路管理者に通報を行って対応していただいております。例えば令和2年度どういう事例がありますか、そこら辺を少し教えていただきたいです。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） 担当からお答えいたします。

○建設課長（大前 満君） 議長、建設課長。

○議長（杉谷 洋一君） 大前建設課長。

○建設課長（大前 満君） 私の覚えている範囲で述べさせていただきますと、国道9号の赤坂の歩道において草が生い茂っているところを除草していただいたというところや、山陰道から道路、町道であり側道であり田畑に草が茂っているところ、そちらについての除草作業依頼ということがありました。そのほかにも、その都度都度かなり多数の件数で県や国にも通報はさせていただいているところであります。以上です。

○議員（14番 野口 俊明君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 野口議員。

○議員（14番 野口 俊明君） 確かに町もいろいろ皆さんがパトロールしていただいておりますけど、我々例えばこの役場に来るに当たっても、この9号線、やっとなあそこの長野の坂下ってこちらに来るところで、坪の辺まで本当に草刈りが済んだのは10月のしまいか、11月の初め頃か、そういうふうな状況でありました。本当に9号車道まで草が出ておるようなところもあって、何か月もそういう状態が、課長の皆さんも通勤されますから分かっているでないかなと思うんですけど、本当にもう少し気がついた人が建設課なら建設課に連絡するというような、そういう対策というものが取れないのかなという気が多々何回もしているわけですが、そこら辺について町内の横の体制というものは、町長、どうなっておるんですか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） 担当からお答えいたします。

○建設課長（大前 満君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 大前建設課長。

○建設課長（大前 満君） 通報があれば、その都度都度、連絡はいただいておりますし、それについて都度都度、道路管理者のほうには通報させていただいております。

○議長（杉谷 洋一君） 野口議員。

○議員（14番 野口 俊明君） 確かに先ほど課長が赤坂のあれされたという、あのところの草刈りされたというようなこともちょっと聞いたわけではありますが、私も相談があって連絡を取ったら、すぐ町は対応をしていただきました。本当に対応が早くて国交省のほうにも本当に礼を言ったようなことでありましたが、今の特に国道については、電動のカートというか、自転車でなしにあれが免許を返納された方がいわゆる買物に移動される、それについて我々が思わぬような状況の路面での危ないというようなことがあるようです。本当に小さな段差があっても転倒してしまうと。アシストカーの、電動カーの幅全体で四、五十センチ、車輪と車輪の前後の間隔にしても左右の間隔にしても本当に狭いもので、運動神経のいい方が、私は倒れるときにすぐ足を出して何とか倒れずにしまうというような話をしておられましたけど、私の知っている人でも、今の転倒してしまって足が車の下敷きになっていたと。その部落内の人が見つけて、みんなで起こして大事に至らずに済んだという例も私も知っております。

そういうふうに、路面と本当に歩道について、車道は結構管理があるようですけど、特に狭い歩道については管理がなかなか、いわゆる私、町の皆さんのパトロールしていても気がつかない、見えないような気がするんですよ、走られても。ぜひ国交省や県だけに任せずに、町の皆さんも歩いてみるとか、いろんなことをもう少ししていただいて、早く修繕もできるような体制を取っていただきたいんですけど、そこら辺について、

もう少し例えば部落の区長さんとか皆さんとか、それから老人会というか、そういうようなところからの情報が上がるシステムというものをうまく構築できないのかなという思いもするんですが、そこら辺はどうでしょうか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

現状で全ての道路を歩いて見て回れというのは難しいところがありますが、各集落からもこういう箇所があるということで要望をいただいたり、それは適宜対応しておりますし、また、個人の方であっても役場のほうに連絡があれば、それに対応するようしておりますので、引き続き住民の皆さんと力を合わせて、そういったところは見つけていきたいというふうに思います。可能な限り道路パトロール等で見つけるようには努力もしていきたいというふうに思っています。

○議長（杉谷 洋一君） 野口議員。

○議員（14番 野口 俊明君） それと、悪いところがあれば、陳情をきちんとしていただきたいと、国のほうも。そうすれば予算がつけれると。そうでないときに、ここ、ここ小さいことと言われると、そこの補修しかできないよと。ある程度の距離、例えば100メートル、数十メートル、そういう距離になった場合には、補修費よりか工事費のほうでやりたいという、でないとなかなか難しいということを私ちょっとお伺いしました。ぜひ、町としてもそういう話が上がってきたときには、国のほうに部分補修でなしに工事でもできるような陳情の方法というものを考えてやっていただきたいと思うんですけど、そこら辺についてどういうぐらいの、どのような状況なら町としてはいわゆる補修でなしに工事としての陳情というような方法のほうに持っていけるのか、そこら辺の状況についてお伺いしたいと思います。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

国や県に対して、どういうふうに陳情を要望しているかということですが、これは毎年町村会で取りまとめて、県内町村要望を県なり国なりに上げておりますし、個別の大山町の事案に関しては、それぞれ意見を吸い上げていただく場がありますので、そういった際に要望等上げるようにしております。個別の修繕等はそれとは別で、常時何かあれば通報するような体制で修繕等をしてもらっているというようなすみ分けであります。

○議員（14番 野口 俊明君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 野口議員。

○議員（14番 野口 俊明君） 今の2点目の町道に関する安全対策であります。ガードレール等をこの間もちょっと私、車が落ちたところをちょっと協力したことがあるんですけど、ガードレールをつけてほしいようなところに部分的にしかガードレールがつ

いてないというような状況が見えるんです。そういう辺の点検というのか、点検方法はどのようなことでそういう中途半端な状況でしまわれているのか、お伺いします。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） 担当からお答えいたします。

○建設課長（大前 満君） 議長、建設課長。

○議長（杉谷 洋一君） 大前建設課長。

○建設課長（大前 満君） その中途半端に終わっているところがちょっとどこか分かりませんので、私のほうからちょっと今、そちらについての答弁ということはできないかと思えます。個別にこういうところがどうだろうかということをおっしゃっていただければ、その点についての、どうしてそうだったかという経過等をお知らせなりすることはできるかと思えます。

○議員（14番 野口 俊明君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 野口議員。

○議員（14番 野口 俊明君） はい、了解しました。なら、ここで個別なことを言ってもしようがありませんので、また後で建設課のほうに御相談に参りますので、よろしくお願ひします。

でも、町として、本当に住民が困っているときに、ちょっとお願いすれば結構早い補修はしていただいておりますよ。これは本当に感謝せにゃいけんなとも思うんですけど、もう少し安全対策に、特に草刈りですね、あれについてももう少し早めにしていただけんかなという気がするわけでありまして。町道といっても本当に農道よりか幅がないような町道もまだまだありますし、草が生えてきちゃうと本当に軽でもへりをこしらえにゃ走れん町道もあるわけですから、もうそういうような、特に大山町は農業町であります。結構朝晩ブロッコリー等でも暗いうちからでも車が走るわけでありまして、それからナスパルタウンなんかにおいては早朝に散歩される方があります、本当に暗い間から。そういう方と本当にカーブで草をよけて通ったら目の前に歩行者があったと、散歩しておられる人があったというような事例が多々あるようでありますんで、ひとつ少し道路の視界をよくしてほしいと思うんですが、もう少し早い時期に草刈りでもすることはできないんでしょうか、そこら辺のちょっと状況を教えてください。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） 担当からお答えいたします。

○建設課長（大前 満君） 議長、建設課長。

○議長（杉谷 洋一君） 大前建設課長。

○建設課長（大前 満君） 草刈りを早くということでございますけども、町道においてほとんどの区間で1回刈りというところが多くございます。そういった中で、業者委

託している部分であったりとか、町のほうで直営で草刈りをするといったようなことをやっておりますけども、その辺でかかる時期等がどうしても一斉にかかるということもできませんし、時間を置きながら順番に刈っていくということが出てまいります。そういったこともございますけども、今後そういった除草の時期の見直し等、そして回数等も見直しを行いながら、来年度に向けては準備をしていきたいと考えております。

○議員（14番 野口 俊明君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 野口議員。

○議員（14番 野口 俊明君） はい、分かりました。

続いて、ドア・ツー・ドアということで私があれしたのは、いわゆる今のデマンドバスの状況を見ていると、この間、今の私たちに資料いただきました。平成24年に7,318人の利用者があって、令和元年には5,302人、2,000人も減ってます。逆に、タクシー助成事業については、平成29年に187人の登録者があって、利用者が667人、令和元年には232人の登録者になって、2,082人の利用者があったと。今年度は272人の登録者になって、9月末で1,148人ということで、昨年の2,000人よりかもっと増えるだろうという予測であります。こういうことから考えて、デマンドバスよりか、このタクシー助成とか、それから私が今言いましたように、ドア・ツー・ドア型の共助交通ということで、地域によってでしょうけど、できればそういうものも含めて町内のこの公共交通といいますか、そういうものに考えていくというような、特に免許返納者をたくさん出すということは、逆にその人の足も考えないといけないと。その人の足というものについて、高齢になると、私の知っている人でも、歩くのは大変なんですよ。車に乗ると何とか移動ができるという状況であります。

そういう状況の中で考えていくと、やっぱりこのデマンドバスについては、ある点からある点までということで、ドア・ツー・ドアというような格好にはならんわけであり。そしてまた、特に下りならあれですけど、上りについて本当に高齢者の人については歩くことが大変だということで、逆にそういうものを利用をためらっておられる人が何人もあるということも聞くわけであり。

数字にしても表れておるのが、そういうことも、亡くなった人もあるんでしょうけど、そういうことを反映した数字ではないかなと思って私考えるわけでありまして、ぜひ、できるかできないかは別として、やっぱりこういうことについても研究もしていただきたいと思うんですが、どうでしょうか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

デマンドの利用者が減って、福祉タクシーの利用者が増えている、ここ数年でということですが、これは一番大きい理由の一つとして、福祉タクシーのタクシー助成の拡充をしたからであるというふうに思っています。今まで1,000円未満の部分に助成はな

かったんですが、これを近距離でも利用してもらっても助成するようにさせていただきますので、それで登録者も増えて、利用者も増えているものというふうに思っています。これはニーズがあったけど、少し料金が高くて使うのどうしようかなというような方が、助成があるので積極的に使っていていただいているというような状況が考えられます。

引き続き、免許を返納された方、あるいは移動手段を持たれない方に対して、町内で生活になるべく不便が生じないように、公共交通の在り方、移動手段の確保の仕方は、検討していきたいというふうに思っています。

○議員（14番 野口 俊明君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 野口議員。

○議員（14番 野口 俊明君） 4点目の電動カート、この補助金の新設ということであれしたわけではありますが、いわゆる障害者の、障害のある方にはそういうものがあるということですが、一般の免許返納した方には何もないと。値段も38万ぐらいするんですね。その上に、オプションいろいろ、万単位のオプションから何千円のオプションまでついておるわけですが、これについてそういうふうに障害者だけでなしに、せっかく免許を返納されておる方に、ぜひ補助の方法等考えていただきたいと思うんですけど、そこら辺について絶対に考えられないというのか、考える余地があるのか、そこら辺、町長の気持ちはどうなのか、お伺いします。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

確かに免許返納された方が移動手段に困られるというようなケースは、よくお聞きするところであります。その対応として、今までデマンドバスの回数券、免許返納時に1回限り交付されていたものも、毎年交付しようということでもさせていただいておりますし、それでもデマンドバスもちょっと利用するのが難しいとか、不便だなというような方がおられて、そういう方が電動カートとか利用されているケースがあるのではないかなというふうには推察いたします。免許返納者の対応あるいは免許返納の推奨していく上では、やっぱり農地に行かれる方とか、その目的地外に行かれる方というのかなりありますので、そういったところに何らか手当ができないかというところは考えていきたいと思いますが、何分私も任期は4月23日までで、次の予算は骨格予算でありますので、やるともやらないともなかなか言いにくいところですが、私は検討したいと思っております。

○議員（14番 野口 俊明君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 野口議員。

○議員（14番 野口 俊明君） 何か対抗馬もないようですから、ぜひ、検討といって、決定するぐらいの努力をしていただければと思います。本当に私も話を聞いてみて、ぜひ必要でないかなと。何か商売の人から話を聞いたときに、やっぱり38万、結

構するんですね。で、いわゆる消費税がかからない、非課税なんですけど、本当にそれに各そういうオプションのものをつけた場合に、皆さんのように年金が多い人はいいかもしれんけど、農業者、いわゆる国保の年金ってもう本当に一人で生活するのが大変だと思いますよ。そういう方が、我が町は農業町ということですから、若い人はこう社保というか、いろんなあれがあっても、本当に今まで町を支えていただいた高齢者については何もないわけです。特にそういうふうに幼少期からのあれはいろいろ今考えていただいた。もう大体基本的にはある程度の線が来たんでないかなと思います。ですから、これからぜひ高齢の方の、特にこういう弱者に対してのこの目を向けるということを私は希望するわけでありまして。

これ以外のことで、いろいろ町長の耳には入っておると思うんですけど、全体について今、これについては検討するということですが、ほかのそういう弱者についてのいろんなことについても検討される、特に来年度からでも検討される気はあるでしょうか、そこら辺もお伺いします。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） 答え方が難しいんですけども、表現が難しいんですが、次の肉づけ予算をするような時期に、違いますね、ちょっと待ってくださいよ、何かいろいろ引っかけりそうなんで、何か、何て表現していいかわからないんですが、交通弱者対策として免許返納者に、もうちょっと不便なく移動手段を持っていただくというのは必要だと思います。思いますが、やっぱり先ほどとちょっと同じような表現になると思いますけれども、来年度当初予算は骨格予算になりますので、私も任期は4月23日までのので、23日までのことしか言えませんが、難しいですね、気持ちをお酌み取りいただければというふうに思います。

○議長（杉谷 洋一君） 野口議員。

○議員（14番 野口 俊明君） ひとつそういうことで、よろしくまた検討をお願いします。

そういたしますと、今の教育長のほうにもう少しだけお伺いします。

いろいろ本当に子供たちのこと、学校としても考えておられるということで、先ほどもお伺いしたわけでありまして、いわゆる登下校について私見していると、上級生が下級生をいたわりながら安全対策、駄目だ、止まれと、こういういろいろなことを見ておるわけでありまして、学校ごとに通学路の点検はしておられるということでありまして、その学校ごとでなしに、例えば教育委員会事務局や教育委員さんがそういうところを見て回られるということはされますか、ないでしょうか。

○教育長（鷺見 寛幸君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 鷺見教育長。

○教育長（鷺見 寛幸君） お答えいたします。



具体的な詳細につきましては、前田次長がお答えいたします。

○教育次長（前田 繁之君） 議長、教育次長。

○議長（杉谷 洋一君） 前田次長。

○教育次長（前田 繁之君） お答えします。

事務局のほうでも、いろんなパトロール等を実施しております。最近で言いますと、ブロック塀の問題がありました。そのブロック塀についても、事務局職員が町内の全ての通学路をチェックしたということもあります。定期的にならやっているとこのわけではありませんけれども、時期を見て安全点検はしているということでございます。以上です。

○議長（杉谷 洋一君） 野口議員。

○議員（14番 野口 俊明君） こう本当に集団で子供たちが登下校等しているときには、上級生というものはいいあれでやって、下級生等をかばいながらやってあれですけど、今の我々走って見ているときに、バスによっては、本当に狭い町道でも通学路で狭いところもあつたりなんかするわけですし、それからバスによっては、運転者から横断歩道があるかないかも分からんような状況のところもあるわけなんです。そういうところも私は点検をしていただいて、いわゆるそういう横断歩道の看板というか、標識とか、それから歩道のあれはペイントとか、そういうものを見ていて、もう少しうまくきれいにゃいけないところが何か所もあるような私、気がするんです。

ですから、いわゆる学校ごとでなしに、教育委員会としても、その通学路のそういうものを見ていただいて、いわゆる学校だけで見ておつても、予算に私はなかなかすぐ反映が難しいような気がするんですよ。ですから、教育委員会自体がこう見て歩かれて、気がつかれたらすぐ予算に反映ができるんでないかなという気がしておるわけで、そこら辺にぜひ考えていただきたいと思うんですけど、いかがでしょうか。

○教育長（鷺見 寛幸君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 鷺見教育長。

○教育長（鷺見 寛幸君） お答えいたします。

野口議員のおっしゃるとおり、やはり多角的な視点で通学路を見ていく必要があるというふうに考えております。学校側だけの判断で見るのだけではなしに、先ほどおっしゃったように運転者の目、また、通学していく児童生徒の目から見た要望というのがあります。実際、PTA要望もあります。児童生徒が住みやすい私たちの町をどのようにつくっていくのかという主体的に考えて、自分たちがまちづくりをしていくんだという勉強もしております。その中で、児童生徒から上がってきた要望もあります。それについて実際に建設課のほうでも聞いていただいて、改善されたということもあります。街灯がついてなかったところに街灯がついて歩きやすくなったとか、そういうようなところもありますので、ぜひ教育委員会としましても今後、やはり危ないというような指摘があった場所とか、児童生徒から要望のあったような場所については再度確認をして、

早急な対処ができるように考えていきたいというふうに考えます。以上です。

○議員（14番 野口 俊明君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 野口議員。

○議員（14番 野口 俊明君） この耕作放棄地のことをあれですが、なかなかこう、今ここを答弁いただいたところを見ても、耕作放棄地をなくすすべは難しいんでないかなというような気がするわけです。ぜひ面積が小さくても、隣近所とか、何か路地物でも作ってもらったり、いろんなこともできるんでないかと思うんです。大きい面積なら確かに貸し借りが簡単であると思うんですけど、なかなかいろんな面でいけば、本当にあちこち歯が抜けたような格好の状況になるような気も感じが多々あるわけで、ぜひぜひ小さい面積にしても手が届くような方法を検討してもらいたいと思うんですけど、そこから辺についてちょっと耕作放棄地のことについて一言全体の対策等お伺いしたいと思うんですけど、特に高齢者の人等に対する手当てということでお聞きいたします。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

全体的に移動手段の話も出てましたので、そこと結びつけた上での耕作放棄地ということを考えますと、やっぱり一つに、運転免許証を返納したことによって、農地に行けないということもそうですし、小型特殊の機械が運転できないだとか、そういうような課題もあろうかと思えます。それによって農業をやめられてしまう、そういう方も一定数あるのではないかなというふうに認識をしておりますので、そういった方たちがどうやったら農業を続けていただけるのか、これは耕作放棄地だけの問題ではなくて、その方の生きがいづくりであったり、健康づくりであったり、そういったことにもつながりますので、何とか人生の生きがいとしての農業を続けていただけるような工夫をすることで、耕作放棄地の増加も多少は抑えられるのではないかなというふうに思っております。

○議員（14番 野口 俊明君） 議長。課長、何か言うことがありませんか。

○議長（杉谷 洋一君） 答弁をお願いしますけども、もう1分ちょっとですので手短に。

○町長（竹口 大紀君） 御指名ですので、担当からお答えします。

○農林水産課長（井上 龍君） 議長、農林水産課長。

○議長（杉谷 洋一君） 井上課長。1分30秒ですので。

○農林水産課長（井上 龍君） 耕作放棄地、こういったものをなくすということも考えていまして、また、コロナの関係で自走式草刈り機、そういったものも支援の一つだというふうに思っております。今後、農業委員会が農地パトロールをやっておりますので、協力しながら農地の管理は徹底していきたいと思えます。以上です。

○議員（14番 野口 俊明君） 終わります。

○議長（杉谷 洋一君） これで野口俊明議員の一般質問を終わります。

○議長（杉谷 洋一君） ここで休憩いたします。再開は11時30分いたします。

午前11時20分休憩

午前11時30分再開

○議長（杉谷 洋一君） では、再開します。

次に、5番、大原広巳議員。

○議員（5番 大原 広巳君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 大原議員。

○議員（5番 大原 広巳君） そうしますと、お昼を挟んでしまいますので、今日3問用意しておりますが、2問目まで終わりたいなというふうに思っております。

まず、1問目に、防災対策について質問をしております。それで、全国的にはコロナが第三波が猛威を振るっておるわけですし、ウィズコロナ、アフターコロナというふうにコロナ対策を分けるとしたら、ウィズコロナ、現時点でのコロナに対する対策を絡めながら議論したいなというふうに思っております。

そうしますと、防災対策についてということで質問いたします。本年は、厳冬と予想されておりますが、新たな対策はあるでしょうか。質問を3つ読み上げます。各避難所や自治会集会所でのコロナ対策は十分か。2つ目、保育園や小・中学校などの電源対策に進展はあったか。建設業協会やリース会社との連携は。3つ目、暖冬が続いていましたが、除雪対策は万全でしょうか。以上、3点お願いします。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 竹口大紀町長。

○町長（竹口 大紀君） それでは、対策が取られておりますので、マスクを外して答弁をさせていただきます。

大原議員から1点目の各避難所や自治会集会所でのコロナ対策は十分かとの御質問ですが、町内の避難所の備蓄品については、9月議会で御承認いただきました予算を活用して購入事務を進めているところです。

11月には、新型コロナウイルス対応の避難所の運営訓練を実施し、米子保健所からも職員に来ていただき、助言をいただきました。受付時の聞き取り方法等課題が出てきましたので、実災害の対応や今後の訓練に生かしたいと思えます。

議員おっしゃるように、コロナウイルスへの対策も重要ですが、これからの季節は、ノロウイルスにも注意が必要だと考えます。コロナウイルスだとアルコール消毒が有効、ノロウイルスの場合には、手洗いの環境が重要だと米子保健所より助言をいただきましたので、様々な感染症を考えた上で対応したいと考えます。

各自治会においては、会議等で密にならないように書面での開催にする等工夫されて実施されている集落もあります。集落により世帯数の状況や開催頻度等が異なりますの

で、それぞれの集落のやり方で感染症対策を取り入れて実施していただきたいと思います。

2点目の保育園や小・中学校の電源対策については、役場等で保有している発電機等を活用することにより対応したいと考えます。長時間にわたる大規模停電時には、国等に依頼し、移動電源車等の貸出しも要請することとしました。

3点目の暖冬が続いたが、除雪対策は万全かとの御質問ですが、近年で最も積雪があった平成28年度以降、除雪体制の見直しを行い、借り上げする除雪機械を16台から29台へ13台増強し、機械1台当たりの除雪延長を減らし、効率的な除雪ができるようにするとともに、平野部での積雪にも対応できるような体制を確保しております。

また、集落委託も23集落から40集落と17集落増えており、集落の協力も得ながら今年度の積雪シーズンに臨みたいと考えております。

以上で答弁とさせていただきます。

○教育長（鷺見 寛幸君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 鷺見教育長。

○教育長（鷺見 寛幸君） 私もマスクを外して答弁させていただきます。

大原議員の防災対策についての御質問については、町長が答弁したとおりでございます。

以上で答弁とさせていただきます。

○議員（5番 大原 広巳君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 大原議員。

○議員（5番 大原 広巳君） そうしますと、遅れましたけども、私もマスクを外させていただきます。

そうしますと、ちょっと二、三追加質問をさせていただきます。

最初に、避難所とか自治会の集会所などのコロナ対策のことを聞いたわけです。拠点避難所あるいはそれ以外の避難所については、答弁にあったとおり、準備ができているといえますか、対応がちゃんとできているなどと思って安心しました。自治会の集会所というのをもう一つ聞いております。これから年末年始、書面で総会をやられる自治会もあるかもしれませんが、できるだけコロナ対策を取って会合はやはり集まってやりたいという集落もかなりあるというふうに思われます。

そうしますと、やっぱり最低限、検温器あるいは消毒液などは用意せにゃいけませんよね。で、区長ともちょっと話ししたんですけども、検温器なども今、簡易のが出てますので、そんなに何十万もする機械じゃなくて、1万円前後のを買えばいいんじゃないかなというふうに言っておりました。消毒液も十分買いそろえることは今できる状況です。それで、公共施設あるいは小学校、中学校などは、春からも感染対策に万全を期して備品なども十分用意して、ここまで感染者出さずにきちょうわけですけども、やはりこれから高齢者がたくさん集まる集落の集会在年末年始予想されますので、ぜひとも気

をつけてくださいだけじゃなくて、今言いました検温器とか消毒液などの備品に町のほうとして助成して、必ずこれは用意してくださいというふうに持っていかにかいけんじやないかなというふうに思います。この点について、何か対策は考えておられますか。じゃ、町長、お願いします。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

自治会によっていろんな工夫をされていて、既にそういったものを準備されて対応されているところもあれば、書面の開催にして人が集まらないようにするような工夫をされているところもあるというふうに聞いております。全部に一律に、何かこれとこれとこれを準備して対応してくださいというようなことではなくて、やっぱり集落、自治会、その近所の地域の方が集まって組織をされているものですので、その組織の中でいろいろ対策等は話し合っていて決めていただくのが一番ではないかなというふうに思っております。

○議員（5番 大原 広巳君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 大原議員。

○議員（5番 大原 広巳君） 今、町長の答弁聞きましたけれども、やはりこれから年末年始、成人式のことでも結構議論しましたけれども、県外から人が行き来をする時期に入ります。で、自治会もこの年末年始会合があります。やっぱりもうちょっと町長としては危機感持ってこれこれに助成をするので、必ずこれは用意してくださいというふうな、もうちょっと突っ込んだ対策するべきじゃないかなというふうに思いますけども、検温器なんかも、もうコロナ当分付き合っていていかにかいけませんので、年末年始で使って終わりということじゃなくて、これから当面の間必要なものだというふうに思いますので、検温器なんかぜひとも助成して、集落で買うように進めてもらえないでしょうか。もう一度答弁求めます。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

各集落で工夫の仕方は異なると思いますし、検温等に関しても、出てくる前に測ってきてくださいねというような声かけがあったりとか、基本的には三密を避けて空気が流れる状態をつくって、マスクも着用していて、飲食を伴うような集会でなければ感染が拡大するような心配を過度にしないでいただかなくても大丈夫かと思いますが、どのような対応するかというのは、やっぱり先ほど答弁でも述べさせていただいたとおり、集落によって状況が違いますので、世帯数も違いますし、開催する、しないというところも違いがありますので、そこは自治会の判断になろうかなというふうに思っております。役場のほうからというか、行政のほうから何か支援をとということでもありますけれども、

現状ではその大きい何か設備投資ということではありませんので考えておりませんが、どうしてもちょっと購入するのに、コロナ対策として購入をしたり、設備投資をしたりするのに集落の力だけじゃちょっと難しいわというようなことがあれば、しっかり支援はさせていただきたいなというふうに思っております。

○議員（5番 大原 広巳君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 大原議員。

○議員（5番 大原 広巳君） ぜひとも前向きに検討してみてください、もう日がありませんので。

そうしますと、2問目の質問で、小・中学校の非常時の電源対策ということで、1年前に一般質問をさせてもらいました。そのときに、鳥取県は非常時には当てがあるといえますか、電源を依頼するところが決まっているという1年前は答弁、回答が鳥取県ではありました。それで、県はそうかもしれんけども、大山町としても独自の電源対策ということで検討してもらおうように話したところです。それで、この夏頃でしたか、鳥取市のほうでは可搬式の予備電源といえますか、電源を持っている建設関係の業界あるいはそのレンタルでリースしておるリース会社ですよ、そういうところがふだんはたくさん可搬式の電源を持っていますんで、災害時の有事のときには優先的にといえますか、そういう公共施設、特に小学校、中学校はたくさんの人を収容できますんで、そういうところに電源を優先的に回してもらえないかという協定を鳥取市のほうは結んだようです、ニュースで見ました。

西部のほうでは、そういう動きはありませんけども、ぜひとも大山町もそういうところと電源対策で協力ができないかの検討をしてもらいたいというふうに思いますが、今まで何も動きはありませんか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） どういう動きがあっておるかというのは担当からお答えさせていただきますが、大山町の建設業協議会等、そういった連携ができないかというところは模索していきたいというふうに思っております。協定を正式に結ぶかどうかというところですが、近いというか、顔の見えるコミュニティでやっていますので、例えばこの今年度の新型コロナウイルスの感染拡大があったり、緊急事態宣言が出た際にも、建設業協議会のほうから、何か手助けすることはないかと、建設業協議会は公共事業とかも多いので、そのコロナによるダメージがあるような事業者の支援だとか、住民の支援が何かできんかなというような声を大山町の建設業協議会のほうからいただいたりもしております、非常に何か有事の際には協力をいただいておりますので、大規模停電等があったらそういうような連携も十分にできるかなというふうには思っております。それを書面でするかしないかというところは検討の余地があるかと思えますし、向こうの意向もあろうかと思っておりますので、またいろいろ協議をさせていただきたいというふう

に思います。

○議員（5番 大原 広巳君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 大原議員。

○議員（5番 大原 広巳君） このことで、教育長にも県の対応を調べてもらって、大山町でできることはないかということも聞いて預かってもらっていますが、教育委員会のほうの関係で何か動きがこの1年ありましたか。

○教育長（鷺見 寛幸君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 鷺見教育長。

○教育長（鷺見 寛幸君） お答えいたします。

先ほどの大原議員からの質問の、県等との協議なり動きはありません。以前、そのほかのことですが、大原議員から体育館のこととか、トイレのこととか、お話がありました。これについては、年次計画を基にこれから検討していこうというふうに考えております。以上です。

○議員（5番 大原 広巳君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 大原議員。

○議員（5番 大原 広巳君） じゃあ、また動きがあったらぜひとも教えてもらいたいというふうに思います。

3つ目に、除雪の体制は大丈夫かということを確認の意味で質問させていただきました。今も外は雪が降っているようです。今シーズンの最初の積雪かなというふうに思います。除雪機械も増強して万全の体制をもちろん組んでおられるとは思いますが、2年続けて暖冬が続いてますけども、委託先のほうからどうですか、何がしかのこういうところが困っておるんだけどもというような要望はないですか。そこら辺も含めて体制は十分なんでしょうか、ちょっと確認をしたいと思います。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

大原議員御指摘のとおり、今、外で雪が物すごく降ってきて、さっき一般質問の始まりぐらいには道路に積雪なかったんですが、今、道路にもう積雪がある状態になってきました。今も除雪が動いているということで聞いておりますけれども、現状、課題等に関しては担当のほうからお答えをさせていただきます。

○建設課長（大前 満君） 議長、建設課長。

○議長（杉谷 洋一君） 大前建設課長。

○建設課長（大前 満君） 先ほどの御質問ですけども、委託業者のほうからは特に要望等は今のところいただいておりません。

○議員（5番 大原 広巳君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 大原議員。

○議員（５番 大原 広巳君） それでは、担当課におかれましては、しっかり除雪のほうをよろしくお願ひしたいというふうに思います。

そうしますと、２つ目の農家支援事業について質問に移りたいというふうに思います。そうしますと、質問を読みます。１つ目、農耕用免許取得推進事業の現状は。２つ目、省力化支援事業の現状は。３つ目、共済組合の所得補償制度への、町の支援は考えていないか。以上の３点です。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） 大原議員から、１点目の農耕用免許取得推進事業の現状はとの御質問であります、１０月末時点で１４３人の方から申請をいただいております、今年度、２００人の申請を見込んでおります。

２点目の省力化支援事業の現状はとの御質問であります、小規模農家農作業省力化支援事業につきましては、１０月末時点で３６１人からの申請をいただいております、今年度、５００人の申請を見込んでおります。集落営農支援事業につきましては、２４組織から申請をいただいております、２つの営農組織と協議、調整をしております。これらの事業は新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用しており、経済回復を図りながら農業振興も図る事業として創設した事業であります、どちらの事業も反響は大変大きかったと感じております。

３点目の共済組合の所得補償制度への町の支援は考えていないかとの御質問であります、収入保険の助成につきましては、来年度実施に向けて検討しているところでございます。

以上で答弁とさせていただきます。

○議員（５番 大原 広巳君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） それで、大原議員、ちょうどここが区切りがいいところではないかなと思って。町長のほうから答弁がありました。まだ大原議員からは追及質問もあろうかと思いますが、それは午後からということで、ここで休憩といたしたいと思います、どうですか。いいですか。

○議員（５番 大原 広巳君） はい、よろしいです。

○議長（杉谷 洋一君） ということで、ここで昼の休憩にしたいと思います。再開は午後１時とします。

午前 11時 54分 休憩

午後 1時 00分 再開

○議長（杉谷 洋一君） では、再開します。

午前中に引き続き、大原議員の一般質問を行います。  
大原議員。



○議員（5番 大原 広巳君） そうしますと、感染対策が取られておりますので、マスクを外して質問します。

午前中、途中やめになってしまいました。農家支援事業について、ちょっと追加質問をさせていただきます。

農耕用の免許取得推進事業ですが、200人という申請を見込んでおられるということなんですが、県の試験場も限定免許がスムーズに取れるようにトラクターを導入したりして、取りやすい環境にはもちろんなってきたと思います。この事業は、どんなものですかいね、今年度末までの予定でしょうかね。申請が、年度末になって、4月以降はないだということであれば、皆さん、この冬場の農閑期にぜひとも取ってほしいというふうには思います。年度末に向けてのいつ頃までという、申請がですね、取ってから申請でしょうけん、そこら辺の年度末の予定があったら教えてください。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 町長。

○町長（竹口 大紀君） 制度の詳細に関しては、担当からお答えいたします。

○農林水産課長（井上 龍君） 議長、農林水産課長。

○議長（杉谷 洋一君） 井上農林水産課長。

○農林水産課長（井上 龍君） 失礼します。この免許の取得の期限ですけど、要綱上は3月いっぱいとなっております。ただ、見込み等がございますので、広報の12月号で1月29日までに申請をお願いしますということで周知はしております。また、3月までに取られる方は、農林水産課のほうに問合せをしてくださいということで周知しております。以上です。

○議員（5番 大原 広巳君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 大原議員。

○議員（5番 大原 広巳君） じゃあそういう予定だそうなので、ぜひともこの農閑期にまだの方は取っていただきたいなというふうに思います。

2つ目に、省力化支援事業について聞きました。集落営農関係のほうはまだ2つの組織と協議中ということですが、今回も、当初、小規模農家のほうも含めて2,000万ずつ予算がついとったと思います。今回1,900万の予算が組んでありますが、残りの2つも、もし話がいい具合になれば、さらに必要ということですか。これ見込んだ数字でしょうか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） 予算の詳細の部分は担当からお答えさせていただきます。

○農林水産課長（井上 龍君） 議長、農林水産課長。

○議長（杉谷 洋一君） 井上農林水産課長。

○農林水産課長（井上 龍君） 失礼します。見込んだ数字というふうになっておりま

す。

○議員（5番 大原 広巳君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 大原議員。

○議員（5番 大原 広巳君） 分かりました。

小規模農家の省力化の事業ですけども、500人の申請の見込みですが、今回は予算額が少ないですけども、大体ほとんどの人が手挙げしたというふうにはですかね。それと、これも期限があることでしょうけん、もし申請の期限のことがあったら、そのことも教えてください。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） 制度の詳細は担当からお答えさせていただきます。

○農林水産課長（井上 龍君） 議長、農林水産課長。

○議長（杉谷 洋一君） 井上農林水産課長。

○農林水産課長（井上 龍君） 失礼します。期限のほうは、先ほどの農耕用免許の取得と同じ広報でしてまして、広報12月号で周知しております。期限も1月29日までということをお願いしております。以上です。

○議員（5番 大原 広巳君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 大原議員。

○議員（5番 大原 広巳君） そうしますと、3つ目に、所得補償の収入保険の話を見せてもらいましたが、町長から前向きの答弁がありました。ぜひとも前向きに検討してもらいたいというふうに思います。詳細については、また野口昌作議員が後で時間取って質問されますので、この件についてはこれで終わりたいと思います。

そうしますと、3つ目の質問に入りたいというふうに思います。

そうしますと、質問を読み上げます。

ひきこもり対策について、1つ目、保・小・中で不登校などの件数や相談は増えていないか。いじめ、虐待などの状況も教えてください。

2つ目、独り親家庭のさらなる支援が必要では。現状と対応は。

3つ目、心配事相談や人権相談などの業務が増えていないか。対応は万全か。

以上3点、お願いします。

○教育長（鷺見 寛幸君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 鷺見教育長。

○教育長（鷺見 寛幸君） それでは、マスクを外して答弁させていただきます。

大原議員の1つ目の御質問、保・小・中で不登校などの件数や相談は増えていないか、いじめ、虐待なども含めてについてお答えいたします。

いじめや不登校の件数につきましては、毎月学校から報告を受けており、状況を把握することができています。また、いじめ等の問題行動や虐待事案につきましても、学校

が把握次第、速やかに教育委員会に報告するように義務づけております。件数の把握とともに、その対応状況についても教育委員会が把握しております。不登校児童生徒につきましては、平成27年度から増加傾向にありましたが、令和元年度から減少に転じています。特に小学校での不登校件数が減りつつありますので、今後、中学校の不登校件数も減少していくのではないかと考えています。

いじめについては、昨年並みの件数で推移しています。スクールソーシャルワーカーへの相談件数は、昨年度は延べ70件あり、主な内容は、家庭環境に起因するものや家庭での保護者の困り感に関するものでした。今年度は、11月末現在91件で、スクールソーシャルワーカーへの早めの相談が増えたこともありますが、相談件数は増えています。相談内容は、親子間のトラブル、発達障害などの特性についてなどです。

虐待事案につきましては、重大な虐待事案は今のところ起きておりませんが、学校、教育委員会、要保護児童対策地域協議会、児童相談所と連携し、早期対応、未然防止に引き続き取り組んでいきたいと考えます。

以上で答弁とさせていただきます。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 竹口大紀町長。

○町長（竹口 大紀君） 対策が取られておりますので、マスクを外してお答えさせていただきます。

今日はそんなにたくさんまだしゃべってないんですが、マイクの電池が切れましたのでちょっと中断しましたが、大原議員からの2点目の独り親家庭へのさらなる支援が必要ではとの御質問につきましてお答えします。

独り親世帯への支援としましては、9月議会におきまして、大森議員の御質問に答弁しましたとおり、低所得の独り親世帯を対象に、国、県の制度に基づいて、ひとり親世帯臨時特別給付金を支給しています。このたび、いわゆる第三波を受けて、国が追加給付を行う見込みですので、県と連携して、本町としても速やかに対応する考えです。

3点目の心配事相談や人権相談などの業務が増えていないかの御質問についてですが、これらの件数については、昨年度と比べて特段の増加は見られません。ただし、昨今の経済情勢から考えますと、潜在的にはこうした相談窓口を必要とする方がいらっしゃる可能性はありますので、引き続き町報などを通じて周知を図ってまいります。

以上で答弁とさせていただきます。

○議員（5番 大原 広巳君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 大原議員。

○議員（5番 大原 広巳君） そうしますと、3つ目のひきこもり対策について、二、三質疑をしたいというふうに思います。

今年10月23日付の日本海新聞に、いじめ、不登校についての、何ちゅうですか、文部省が発表した鳥取県版の数字が載っておりました。これ2019年度の数字なので、

コロナが発生する前の統計ですので、今年の数字については恐らく来年の秋じゃないと発表はされないとは思いますが、いじめあるいは不登校の件数は、いじめの定義といますか、ささいなこともいじめと捉えて早めに相談するという方針が文科省から教育委員会のほうに下りてきて、数がやはり増えたということでもあります。数字をちょっと抜粋して読みますが、100人当たりの不登校児童生徒の出現率というのが数字としてあります。小学校は0.94%ということで、全国平均を0.11ポイント上回ったという結果が載っています。背景には、ゲームやスマートフォンなど、昔とは違う生活環境が一因だというふうに書かれています。そのほかに、からかい、あるいは冷やかし、悪口、軽くぶつかる、ふざけてたたかれるというようなささいなことが半数を占めたというふうに書いてあります。これ、18年から19年にかけてそういう傾向だったわけです。それで、今日答弁いただいた中には、コロナ禍のこの1年は小康状態といますか、そんなに増えてないという結果がなっております。

私は、やはりコロナのことがあって、学校現場も学習の遅れやら感染対策がある中で、逆にこういう子供たちのストレス、保護者のストレスなどを、変な意味、いつもの年よりは的確に把握し切れてないんじゃないか、それで件数としては横ばいということになっているんじゃないかなというふうに、これは僕がちょっと想像することです。コロナの関係で、コロナになったんだけど相談件数が増えていないということには、もちろん現場で今まで以上に取組をされた結果と考えれば誠にいいことなんですけども、隠れた原因がもしあるとすれば、それも考えなくちゃいけないと思いますけども、現場の状況をちょっと教えてもらったらと思います。

○教育長（鷺見 寛幸君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 鷺見教育長。

○教育長（鷺見 寛幸君） お答えいたします。

大原議員の御指摘のコロナ禍の中での生活の状況の変化によるストレスを抱えている部分、そういった影響があるのではないかとということでございましたが、件数としては確かに去年どおりの数になってはいますが、先ほど申しましたように、スクールソーシャルワーカーへの相談件数というものは昨年と比べると随分増えております。ですので、やはり何らかのコロナの影響というのはあり得ると思いますが、実際の学校の中でのいじめの内容ですとか、そういった傾向ですとか、そのような具体的などころについては、前田次長がお答えいたします。

○教育次長（前田 繁之君） 議長、教育次長。

○議長（杉谷 洋一君） 前田教育次長。

○教育次長（前田 繁之君） いじめの内容についてですけども、議員おっしゃられたとおり、ささいなことでも報告ということで報告してもらっています。大きいところというと、冷やかし、からかいが町内では多いのではないかと考えております。以上です。

○議員（５番 大原 広巳君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 大原議員。

○議員（５番 大原 広巳君） 不登校というのは、いろんな原因、今、いじめ、あるいは今回も虐待のほうの件数は増えてないかということも聞いたわけですが、やはり小・中学校の頃の不登校が２０代、３０代、あるいは中高年になってからも、不登校の経験がある人がどうしても、２回目と言ったらおかしいですけども、年を経てからまた不登校というか、ひきこもりにどうしてもなりやすいという傾向があります。前回の質問のときにも言いましたけども、やはり小・中学校のときはしっかり教育現場で対応して、できるだけ不登校を出さないようにお願いしたいというふうに思います。

それで、スクールソーシャルワーカーを増員すべきじゃないかという去年の質問の中で、今、旧町単位ですかね、各中学校に配置されているということでしたが、件数が増えております。コロナもまだまだ当分、どんな影響が出てくるか、時間がたてばたつほどまた今まで消化できなかったストレスといいますか、現場に出てくるのが予想されますが、今後はソーシャルワーカーあるいは相談員の増強は考えておられませんか。

○教育次長（前田 繁之君） 議長、教育次長。

○議長（杉谷 洋一君） 前田教育次長。

○教育次長（前田 繁之君） スクールソーシャルワーカーの増員については、今現在、大山町内では１名配置しておりますが、増員したいと考えております。ただし、誰でもいいというわけではありませんので、適切な人材を、こちらの意向に合っている方が見つければ増員したいなというふうに思ってますし、県にもそういう予算を要求しているところです。

それから、スクールソーシャルワーカーだけではなくて、各中学校区に配置しておりますスクールカウンセラー等もしっかり県には配置していただいておりますので、こちらの活用も考えております。以上です。

○議員（５番 大原 広巳君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 大原議員。

○議員（５番 大原 広巳君） スクールソーシャルワーカーとカウンセラーとちょっとごった煮、ちょっと質問しました。失礼しました。

そうしますと、現場の皆さんには、長期戦になりますけども、頑張っていたきたいなというふうに思います。

それから、２つ目に、独り親家庭のさらなる支援をということで質問しておりましたが、先ほどの政府のほうから年末に、年を越す前に追加的な措置をするという、町長の答弁にもありましたけども、それが決まっておりますので、この件についてはこれで、町のほうにもしっかり年を越さないような対応をお願いしたいなというふうに思います。この件についてはこれで終わりたいと思います。

それから、３つ目に、心配事相談、あるいは人権の相談やら、児童じゃなくて、幅広

い世代のひきこもりが増えています。去年までは推計で60万とか、多いところでも70万人ということが数字として上がってましたけども、もう今年夏以降は100万人いるんじゃないかという、100万という数字がまた出てきまして、やはりコロナでひきこもりが増えていると思われま。相談業務は増えてないということですけども、コロナの中ではありますが、個人情報に配慮しながら、人のつながりが希薄になっているわけですけども、やはり相談業務、あるいはアウトリーチという形で、民生委員さんのほうから情報があればこちらからでも出かけていくような姿勢でひきこもりの相談に積極的に乗り出してもらいたいなというふうに思います。

現場で何か、コロナの関連でひきこもり対策に何か新しい対策なり、今後の予定があったら聞かせてください。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） 現場のほうの話の詳細は担当のほうからお答えをさせていただきますが、基本的には、昨年度と比べて相談件数等が増えていないから大丈夫だろうということではなくて、潜在的には困っておられる方がいらっしゃるんだろうなというような考えを持ちながら常に対応していきたいというふうに思っています。

○福祉介護課長（池山 大司君） 議長、福祉介護課長。

○議長（杉谷 洋一君） 池山福祉介護課長。

○福祉介護課長（池山 大司君） 御質問にありました心配事相談でございますが、こちらは社協さんのほうに委託して実施している事業でございます。例年大体数件ぐらい、昨年度が5件、今年が現在までで4件、毎月1回やっておりますが、非常に相談件数が少ないというのが実態でございます。

もう一つ、人権相談のほうですけど、こちらは人権擁護委員さんが個々に対応されているものでして、統計データは取っておりませんが、感覚的には年間数件ぐらいということで、今年も現状としては変わっておりません。

健康対策課のほうで心の健康相談というのをやっておりますが、こちらが大体年間二十数名ぐらいを対象にしております、今年は4人ほど増えているようです。ただ、実際には、民生委員さんとかが積極的にというふうにおっしゃられたんですが、民生委員さんも現在コロナの関係で訪問を拒否されたりとか、なかなか状況把握がしづらいところがございます、現場としましては、専門職の保健師でありますとか、民生委員さんとか区長さんとか、いろんなどこから情報を得て、各課が連携して対応するケースがあれば当たっていくというふうに考えております。以上です。

○議員（5番 大原 広巳君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい。

○議員（5番 大原 広巳君） 時間がなくなりましたので、区切りがいいですので、これで終わりたいと思います。現場の皆さんには、大変ですけども、頑張ってください。

以上で終わります。

○議長（杉谷 洋一君） これで大原議員の一般質問を終わります。

○議長（杉谷 洋一君） 次に、10番、近藤大介議員。

○議員（10番 近藤 大介君） 近藤大介です。では、通告に従いまして、本日は2問、執行部に質問をいたします。

まず初めに、平成23年豪雪の教訓は生かされているかということで、町長にお尋ねをいたします。

昨日から雪が降ってきております。近年は雪不足だった大山には恵みの雪となっておりますが、大雪になると災害ということもあります。ちょうど今から10年前、平成22年12月31日から翌1月1日にかけて降り続いた大雪は記録的な大雪となりました。国道9号線では約1,000台の車が立ち往生し、町内で丸2日停電した地区もありました。ちょうど今朝の日本海新聞に、教訓を生かす、豪雪10年という記事も出ておりますが、あのかの大雪の教訓を生かしていかなければならないと思っております。10年前、大雪のときに町内で除雪のために出ておられて、雪に埋もれてお亡くなりになられた方もありました。西部広域の消防署がすぐ近くにあるのに、救急搬送するのに5時間かかったというふうに聞いております。あのような状況で、もし町内で火災が発生していたら、雪に阻まれて消防車も救急車も出動できないような状況で、あの大雪がもっと深刻な被害をもたらすものになっていたのではないかと想像します。そうしたことを踏まえ、今後の防災対策に当時の教訓を生かしていかなければならないと感じます。

そこで、町長にお尋ねしますが、まず1点目、あの豪雪から大山町行政が学んだこと、得られた教訓は何だったのでしょうか。それらのことは町の防災計画や防災施策にどう生かされているのでしょうか。

2点目、本町における平成23年豪雪の被災状況や災害対策本部の当時の対応状況、それから、あの大雪の際は大山町内複数の集落で自主的な避難所運営などもされました。そういった自主的な取組などの状況などをどのような形で今現在記録保存されているのか。平成23年豪雪の経験や教訓、記憶を後世に語り継いでいくために、一冊の記録文書としてまとめておくべきだと私は思うのですが、町長のお考えをお尋ねします。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 竹口大紀町長。

○町長（竹口 大紀君） 近藤議員からの1問目、平成23年豪雪の教訓は生かされているかについてお答えします。

平成22年12月31日から1月1日にかけて降った記録的大雪から今年で10年が経過しようとしております。当時は除雪が追いつかない状況が続き、議員がおっしゃるように、国道では約1,000台の車が立ち往生、公共交通機関も麻痺、各地で停電や断水が発生、倒木による通行不能、雪害による農業、漁業への被害も多数発生し、国や県、

自衛隊等、様々な方の御協力をいただきました。また、国道9号線付近の集落の方々や町職員、町消防団、自衛隊等により、立ち往生した方々への食べ物や飲物の提供、避難場所の提供、交通整理、人力による除雪を行っていただくなど、親切で温かい対応をしていただきました。以上のことは、当時、多数のメディアにも取り上げられ、皆様の記憶にも残っているのではないかと思います。

1点目の豪雪から町行政が学んだこと、得られた教訓について、3点お答えします。

1つ目に、共助の大切さです。防災・減災に取り組む上で、自助、共助、公助という言葉がありますが、除雪が追いつかず、行政が行う公助が機能しないような豪雪時には、地域住民で互いに助け合う共助が非常に大切だと学びました。一人一人でできることは限りがありますが、除雪や炊き出し等を地域ぐるみで行うことにより、多くの方々を救うことにつながります。今後も共助を大切にしていきたいと思います。

2つ目に、情報の伝達授受の方法です。現在は、大規模災害時には状況を県等に報告するリエゾンの配置がありますが、当時は、国、県も状況把握が困難な状況であり、現場からの情報収集や報告ができず、防災行政無線を活用しての住民への的確な情報提供ができておりませんでした。また、国道で立ち往生している運転手には、防災行政無線では情報を届けることが不可能な状況でした。

今、本町では、防災行政無線やホームページ、LINE、ツイッターで災害時の情報提供をしております。これらに加え、ラジオが有効と今は言われており、大山町は、令和2年2月に株式会社エフエム山陰、株式会社山陰放送と協定を締結いたしました。これにより、マスメディアを活用して総務課広報室から災害時における情報を地域の皆様により迅速に届けることができるようになりました。

3つ目に、初動体制の確認です。当時は、豪雪時の対応マニュアルが未策定のため、大雪警報発令時の人的配備、初動体制に遅れが生じました。また、指揮命令系統も明確になっていなかったため、災害対策本部が機能するまでに時間を費やしてしまいました。何より大雪で職員が出勤するまでに通常よりも大幅に時間を要し、出勤不可能な職員も多数発生してしまい、限られた人員で対応することになりました。

その後、豪雪時に経験した対応を基に、各課ですべきこと、必要なことをそれぞれの課で考え、豪雪対応マニュアルを策定いたしました。この機会に再度、各課に周知をしたいと思います。

当時は幸運にも火災が発生することはありませんでしたが、ストーブの使用中の火災発生も十分可能性として考えられます。積雪時にも消防車等の緊急車両が通ることができるよう、関係部署と調整したいと思います。

2点目の平成23年豪雪の状況の記録保存についてですが、文書及びデータでの保存をしております。しかし、当時は、職員招集が困難だったため、災害対策本部が機能するまで時間を要したことに加え、出勤可能な職員のみでの電話対応や現場対応に忙殺しており、十分な資料記録としては残っておりません。記録や写真担当としての配置が必



要だったと感じております。議員が提案された記録文書については、町の関係部署を含め、対応していただいた集落、メディアからも情報提供をいただく必要があります。記録文書については、今後の検討とさせていただきます。

以上で答弁とさせていただきます。

○議員（10番 近藤 大介君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 近藤議員。

○議員（10番 近藤 大介君） 10年前、あの大雪が降った際、大雪があんなに大きな災害になるとはそれまで全く思いませんでした。消防や救急車、遅れて来ることはあるかもしれないけれども、全く来ないということがあり得るんだということをあのとき私たちは経験しております。幸いに大きな火事にはならなかったというか、発生しなかったけれども、ひょっとしたら今後またそういうことはあり得るかもしれない。積雪時、緊急出動の対応を、当然出れるように準備はされるんでしょうけれども、あれ以上の大雪が一気に降ったりすれば、やはり速やかな出動が難しいかもしれない。そういったときに、行政は町民の生活を守るためにどうすべきか、やはりあの経験を忘れてはならないと思います。

町長の答弁にもありました。本当にあのとき災害対策本部が機能するまですごく時間がかかりました。たまたまあの大雪で9号線で閉じ込められた1,000台の中に私の知人がいましたので、あの日、1月1日、朝早くから、私、現場に行きました。それで、これは大変なことだなと思い、行政の対応はどうなっているんだろうか、歩いて中山支所まで様子を見に行きました。なかなか十分な体制が取れない、災害対策本部が設置されているはずのこの役場とも十分な連携が取れていないようだったので、そのまま歩いて中山支所からこの大山町役場の本所まで歩きました。その日の夜、大山支所にも行ってみました。2日間で、私、あのとき30キロ歩いたんですけれども、やはりそうした中で緊急車両が立ち往生している現場も見ました。住民の皆さんが集落で協力しながら除雪しておられる姿も見ましたし、岡集落で速やかに炊き出し、集落での避難所運営をされておるのも少し見せていただきました。やはりいざというときに速やかにそういう体制ができた集落と、なかなかそういう対応が取れなかった集落もあったと思います。その違いは何なのか、やはり今後の教訓にするためにもできる限り文書化していく必要があるかと思えます。町長の説明で、記録が十分に残っていないということでしたけれども、今からでも聞き取りなどで、集落の関係者だったり、当時災害対策本部にあの雪の中かき分けて出てきた職員さんだったり、除雪対応していた現場の建設会社の方々や役場職員の方、やはり可能な限り聞き取りして、あの当時の記憶を文書化していくことが大切ではないかと思えます。改めて、町長、その辺りの御認識、いかがでしょうか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

当時の豪雪の記録等の文書化は、先ほどお答えしたとおりでありますけれども、この豪雪から何を学ぶか、どういうふうに記録をとどめるかというのも確かに大事でありますし、さらにはそれをどう生かすかというところが大事ではないかなというふうに思っています。

現在、10年前の教訓を生かして対応を様々講じてきておりまして、先ほどの答弁の中にもありますように、情報の周知の方法、当時は、今日の日本海新聞の記事にもありましたけれども、情報がなくてどうなっているのかよく分かってなかったという方もたくさんいらっしゃったということでしたので、やっぱりこういうときは、インターネットもいいんですが、マスメディアが重要ではないかなと思います。ラジオの電波を使って災害情報を流すというような仕組みも今年の2月にエフエム山陰、山陰放送と協定を締結して進めるようにしておりますし、情報提供の体制は整ってきております。

そのほかに、課題としては、これは国のほうも言っているんですが、何で1,000台立ち往生したかというのは、豪雪が直接的な原因ではないということです。坂道で、当時はタンクローリーだったと思いますが、大型車両がスリップして、坂が上れなくて、そこで止まってしまったと、それが原因で1,000台立ち往生したというような状況がっておりますので、それに向けた対応というのもこの10年間で様々講じられてきているというふうに認識をしております。

そうした様々な部署でそれぞれの対応を行いながら、また同じような豪雪があった場合にでも大事なライフラインが寸断されないように工夫をしているところでありますので、引き続き、当時の教訓を生かしながら、必要な際には記録等も確認をしながら、今後の対応に生かしていきたいなというふうに思っています。

○議員（10番 近藤 大介君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 近藤議員。

○議員（10番 近藤 大介君） 災害の教訓として、本当に想定外の事態だったと思います。今後、大雪は災害として想定の中に入ってくるかもしれませんが、しかし、やはりその規模だったり、あるいはそれ以外の何かしら非常事態は今後もあるかもしれない。そういう想定外に対して行政はどう対応していくのか。やはり日頃の準備だったり心構えが大事なのではないかなと思います。

そういった危機管理の在り方として、どうあるべきか、ちょっといろいろ今回調べているうちに、元吉由紀子さんという、行政経営デザイナーという肩書ですけども、この方が書いておられるコラムが非常に私の考えに近いなと思って一部紹介させていただくんですけども、行政が、自治体が非常時に想定外の課題に対応していくには、迅速かつ柔軟な判断、行動が必要だと、行政職員にはそういうことが必要だと、そのためには平常時、ふだんから異常を敏感に捉える感受性だったり、危機的な状況に対してゼロベースで新しい方策をイメージする発想力が大事だと、そのほか、いざというときに立場を超えて助け合える横のつながり、こういったことをふだんから備えていくことが大切

だと言っておられます。そのために、行政職員がふだんからできる準備運動として、まちにふだんから出て歩いて回ると、まちの中で、こういう危険箇所があるなとか、この辺り、ちょっと空き家が増えたなとか、そういったまちの変化にふだんから関心を持つような感受性を高めなければならないと。それから、いざ災害とか非常事態になったときに、町長も先ほど答弁されましたけれども、災害対策本部がスムーズに立ち上がるには限らない。指揮命令系統がスムーズに下りていくとは限らない。そういった状況の中で、場合によっては町長や直属の上司の許可を得ることなく、地域の方と協力しながら何かすることがあるかもしれない。そういったいざというときの活動ができるためには、ふだんからよその組織の人と一緒に活動する。そのためのコミュニケーション力などをふだんから養う必要があるというようなことを言っておられました。例えばふだん自治体や地域であるお祭りとかイベントなども考えようによっては行政の職員が地域の方やよその団体と一緒に協力しながら物事をやっていくいい災害対応のトレーニングになるんだというようなことも言っておられます。

振り返って我が町のことを考えたときに、合併してから町の職員も減っております。しかも、例えば中山町の役場職員だった方は、もう大体10年も勤めれば、中山町全域のことをある程度もう分かっておられる職員が圧倒的に多かった。けれども合併して大山町のエリアも広くなる中で、町のことを、町の姿を十分に理解できていない職員も増えていると思います。特に、最近、若い職員、町外からの採用も増えてきています。そのこと自体は別に悪いことではありませんが、やはり町の姿について知識の乏しい職員が増えているということは事実ですので、いざというときに、災害時に瞬時に的確な対応が取れるのか。また、デスクワークも増えています。現場仕事が少なくなる中で、ますますそういったことが心配されます。イベントなどもかつては行政の職員が商工会の方や農協の方、地域の方と協力し合う中でやっていたものが、もうテントの設営から何から外注で、直接職員が携わらない場面も増えました。そういった中で、ますます行政の職員がいざ何か緊急な出来事があったときに対応できる現場対応能力が低下してきているのではないかと私は思います。その辺り、町長の御認識はいかがですか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

確かに3町合併して、約160集落あって、いろんな地域の状況があって、いろんな人が住んでおられる。それをいかに生身の情報として、感覚として捉えることができるかというのは、非常時においても必要でありますし、平常時において非常時の準備をする際にも大事、あるいは通常の業務をする上でも非常に大事な能力であるというふうに思っています。

職員がどれぐらい町内の集落を把握しているのか分かりませんが、少なくとも約160集落ある集落全て名前と場所が一致するのは最低の条件だとしても、あの集落のどこ

どこさんと言ったら、ああ、あの家ですねというのが分かるぐらいの能力は、大山町の役場の職員であれば持っているいただきたいなというふうに思います。

そのために、どういうふうにそれを学んでいくかというところですが、職員も常に時間がゆとりがあって、町内をぐるぐる回ればいいですけども、決してそういう状況でもありませんし、私は、議員の皆さんは大体4年に1回はよく町内をぐるぐる歩いたり、車で移動したりもありますので、恐らく職員よりも実は議員の皆さんのほうが各集落の状況なんかは分かっておられる方が多いのではないかなというふうに思います。実感としては、やっぱり歩いてみると町内の各地域の集落のこととか、ここにはこんな人が住んどんなるんだなとかいうことがよく分かりますので、非常にいい学びの方法かなというふうには思っております。

いろんな手法があると思いますが、少なくとも地域の実情をうまく把握した上で、非常時の対応、あるいは通常業務の事業の推進等に生かしてもらおうというのが町民にとっても非常に有益であろうというふうに思っておりますので、そういった能力形成に向けて何らか検討していきたいなというふうに思っています。

○議員（10番 近藤 大介君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 近藤議員。

○議員（10番 近藤 大介君） 人の記憶は薄れていくというところもあるので、改めて10年前の記憶をしっかり残す取組を具体的に今後検討していただきたいと思います。

次の質問に移りたいと思います。中山地区の活性化についてということで、町長、教育長にお尋ねをしたいと思います。

合併してから大山町の人口、特に若い世代の人口の減少が続くわけですけども、そのことによって地域の活力が低下していています。特に中山地区でその傾向が顕著であると私は思っております。そこでお尋ねをいたします。

1点目、中山地区での人口減少の動向、今後の見通しについて、どう考えておられますか。

2点目、中山地区の活性化について、町としてどのような対策をこれまで行っているか。今後の対策について、どのように考えておられますか。

3点目、人口減少の結果、中山中学校の生徒数の減少がとても心配に思っております。現在の人口動態を基準に10年後の中山中学校の生徒数を試算すると大体何人ぐらいになりますか。私がいろいろと調べた自分のデータではというか、1学年が大体20名程度かそれ以下になるのではないかと推定しているんですけども、仮に1学年20名、全校生徒で60名程度の小規模校になった場合、教育上の課題であるとか学校運営上の課題、どのようなことが上がってくると想定しておられますか。

それから、4点目として、コロナの関係で、近頃はアフターコロナとかウィズコロナなど、我々の生活様式もますます変わっていく、価値観もそれに伴って非常に多様化していくと言われる中で、私が思いますのに、今後、田舎暮らしの需要も増えると思いま

すが、そのほかにも小・中学生の地方留学をさせたいという親御さんの需要は少し増えてくるのではないかと予想しています。例えば中山中学校に寄宿舎のようなものを設けて、中学生の農村留学を受け入れるような取組はできないでしょうか。例えば日本の社会もグローバル化が進む中で、海外で働かれる日本人もますます増えると思います。子供さんを海外に連れていかれる方ももちろんありますけれども、教育面でも生活面でも安心して預けられる場所が地方にあったら、そこに預けたいと思われる方も増えてくるんじゃないかなというふうに推測したりするんですけれども、そのような取組が検討できないかどうか、町長、教育長の御見解をお尋ねいたします。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 竹口大紀町長。

○町長（竹口 大紀君） 近藤議員からの中山地区の活性化についての御質問にお答えいたします。

1点目の中山地区での人口減少の動向、今後の見通しについてどう考えているかとの御質問でございますが、大山町全体の人口減少が続いている状況であり、議員御指摘のとおり、中山地区の人口も減少しております。中山地区は、令和2年3月時点で高齢化率が40%を超えており、現状では、今後も人口の減少傾向は続くものと考えております。

2点目の中山地区の活性化について、町としてどのような対策を行ってきたか、今後の対策についてどのように考えているかとの御質問でございますが、人口減少対策については、町全域を対象とした取組を行ってきたところであります。

なお、今後の対策等については、民間の動きに期待したいところですが、動きが鈍い状況であれば、民間活力を用いた町主導による宅地造成、住宅建設や町の遊休施設の民間活用など、取り組んでまいりたいと考えます。

以上で答弁とさせていただきます。

○教育長（鷺見 寛幸君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 鷺見教育長。

○教育長（鷺見 寛幸君） 近藤議員の3つ目の御質問の中山中学校の今後についてお答えいたします。

10年後、令和13年の中山中学校の生徒数については、1年生が21名、2年生が30名、3年生が39名で、全校生徒90名になる予測です。今後10年は令和7年の64名が最も少なく、令和12年の107名が最も多くなるという予測です。

こういった小規模校での教育上、運営上の課題として考えられることとして、配置される教職員数が少なくなることが上げられます。配置される教職員数が少なくなれば、部活動の運営にも支障を来しますし、教職員1人当たりの校務負担が重くなり、課題が生じやすくなります。また、教職員ごとに受け持つ授業時間数にも不均衡が生じやすい傾向があるとも言われています。

そういった課題に対して、これまで中山中学校では、技術科と家庭科において他校と兼務する形で先生を活用してきましたが、次年度以降も同様の対応で学校運営を行っていく予定です。できる限り教職員数を確保できるよう、県教育委員会に要請していきたいと考えています。

4つ目の御質問の中学校の農村留学を受け入れる取組についてお答えいたします。

農村留学は、昭和51年に長野県で始まったのが最初と言われています。現在は、全国の多くの団体が農村留学受入れ施設を造り、自然体験や農業体験などを行っています。

大山町に寄宿舎を設け、農村留学を受け入れる取組を検討できないかということですが、文部科学省が作成した山村留学ガイドラインによりますと、少なくとも5人以上の山村留学生在がいて共同生活を行わないと教育的効果が出ないことや、実務経験3年以上の指導員が24時間生活を共にしながらの指導が望ましいとありますので、スタッフの確保も非常に厳しいのではないかと考えています。そのほか、栄養面や衛生面を考え、地産地消の食育に取り組む専従スタッフの確保や医療体制の構築、保護者と学校との連携など、すべきことは多岐にわたりますので、一朝一夕にできるものではなく、相当な時間と労力が必要になるものと考えております。

以上で答弁とさせていただきます。

○議員（10番 近藤 大介君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 近藤議員。

○議員（10番 近藤 大介君） 町長の答弁、ちょっとびっくりしているんですけども、中山地区の活性化について、町としてどう考えているのかということに対して、人口減少対策については大山町全体で考えていると。ということは、特に中山がどうこうという意識がないということのようなんですけれども、そのほか具体的な取組についての回答もありませんでした。ちょっと驚きです。中山地区は、合併前は中山温泉があって、立派な図書館があって、イベントホールや屋根つきの広場などあって、あのフォーラムなかやま辺りを中心に潤いのあるまちづくりをしていこうと取り組んできておられましたが、合併してからそれらを生かして地域を活性化していこうという取組、合併後はあまり進んでいないどころか、全然意識されてないのではないかと感じてたんですが、町長の答弁にもそういったことが一言も触れられない。これはどういうことですかね。何も考えていらっしゃらないということですか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

活性化、非常に分かりやすい表現ですが、とても抽象的な表現でもあります。活性化が何を意味するのかというところがそれぞれ人によって捉え方が違う。ここが一番活性化の施策の難しいところかなというふうに思っています。

大山町としましては、中山地区であろうと名和地区であろうと大山地区であろうと、

人口が減少している現状をそのまま放置しておけば、どの地区も衰退することは目に見えています。活性化というのは、私が考える定義では、人のにぎわい、経済の発展、こういったことがベースになるんだらうなというふうに思っています。

したがって、今、中山地区だけに特化した施策ではありませんけれども、人口減少対策、力を入れてやっています。これは持続可能なまちづくりをする上で一番重要なポイントでありますし、近藤議員が指摘をされています小・中学校のその地域での維持ができるのかどうなのか、そういうところにも関わってくる問題だと思っています。

町としまして、何も取り組んでいないじゃないかということではなくて、全体で人口減少に取り組んでいますし、先ほどの答弁でもお答えをしましたとおり、民間の宅地開発、住宅建設、こういったものが進まない地域は、やっぱり行政がどんどん介入していくべきだろうというふうに考えております。地区別に見ますと、宅地の開発、大山地区は今たくさんできてます。名和地区も、多少ではありますが、民間の力が入ってきてます。中山地区はなかなか入ってこない。こういう現状があります。民間の力をうまく生かしながら、行政が民間ができないところをサポートしていくというのがその地域の活性化に一番大切なことではないかなというふうに思っています。

近藤議員は公共施設の話をいろいろされましたが、昭和の時代には、公共施設を造ったら、それが活性化なんだというような考えも全国的にはたくさんありました。建物ができればみんなが喜んで、何かにぎわったなというようなところも確かにあったかと思いますが、そうではなくて、やっぱり人がそこに住んでくれる、今住んでいる人が住んでよかったなと思ってもらえる、そういうような地域づくりをすることが活性化だと思いますので、引き続き、中山地区の活性化も含めて、大山町全体が活性化するように取り組んでいきたいというふうに思っています。

○議員（10番 近藤 大介君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 近藤議員。

○議員（10番 近藤 大介君） 先日、教育民生の聞き取り調査の中で、今年度の大山町の出生見込みですね、3月末までの出生数の見込みは66名だというようなことを聞きました。これが、このうち中山中学校区で今年度出生する見込みの人数は何人になるか、データがあったら教えていただけますか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） 出生数をお尋ねですが、こども課がおりませんので、企画課が答えられるというふうに自信を持って手を挙げておりますので、答えたいと思います。

○企画課長（源光 靖君） 議長、企画課長。

○議長（杉谷 洋一君） 源光企画課長。

○企画課長（源光 靖君） 失礼します。お尋ねの出生予定の数ですけれども、66という数字に対して、最新の数字は67ということで把握をしています。その中で、中山

地区については15名が数値ということで把握しております。以上です。

○議員（10番 近藤 大介君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 近藤議員。

○議員（10番 近藤 大介君） 令和2年度、中山中学校区の出生見込みが15人ということなわけですよ。さっき10年後の中山中学校の生徒数の見込み、私が思ったよりもちょっと多いなと思ったんですが、細かく見ていくと、あの年代、さざんか団地やナスパル団地の子供が結構多いんですよ。やっぱり傾向として、もうナスパル団地の子供もどうもピークを迎えたようです。これからだんだんナスパルの子供も減っていきます。今現在、大体、中山の子供の2割から3割はナスパルかさざんかなんですよ。そこがもう減っていくということは、本当にこれからますます減りますよ。今現在が15人です。年によっては10人切るかもしれない。町長、そういう認識って、その危機感、どこまで持っていらっしゃるか。大山口駅周辺は民間で宅地の分譲も進んだりして、しかも分譲した宅地がすぐ売れたりしています。そこで増えてもやっぱり偏りがあると。町全体ではあんまり増えてないかしらんけれども、中山だけで見るとどおんと減っているんですよ。これに対策打たなくてどうするんですか。家だけ、住宅だけ、分譲地だけ造ればいいのかというもんでもないですよ。ナスパル団地、この10年で一体何区画が販売されたか。普通に売ったって売れないわけですよ。何かしら値段を下げるとか、メリットがないとやっぱりすぐには売れない。売れなければ家も建たない。人も入ってこない。そういう対策をやはり総合的に考えていく必要があるんじゃないんですか。どうですか、町長。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

近藤議員は非常に危機感をあおるような感じで言われますけれども、実際これはやっぱり数字を見ていただきたいなというふうに思います。今年度の出生数、中山地区で15人予定だと、そこに危機感がないのかということですが、これは、今、ちょっとコロナで減っているということもあります。今の子供たち、学年によっては中山の小学校とかでも10人台のクラス、あります。近年の様子見ますと、中山地区の子供の数、年によっては増えてきているような年も当然あります。これは予測で、令和13年まで、先ほど話がありましたが、令和12年頃に中学生になる子供たち、非常に多いんですが、ここは12歳、10年、今2歳あたり、2歳前後とかの子供たちの層ですけれども、この辺はたくさん生まれている、あるいは生まれてから中山地区のほうに引っ越してくる、またUターンしてくる、そういうような家庭があるわけです。今、Uターンしている人、あるいは移住してくる人、こういう人も増えてきていて、生まれたときの数から、人口増加率というものがありますが、ゼロ歳から例えば6歳になるまで、生まれたときは、今年でいえば15人の予定、小学校に入るときにはどういう数になっているのかという



ような人口の増加率を見ますと中山地区が一番高いわけです。年によっては、学年によっては1.3とか、30%増ですね。15人の子供たちが生まれたとすれば、20人近くに小学校に上がるときには増えているというような現象が起きています。これは中山地区だけに特化したものではなくて、町全体で人口減少対策とか子育て世帯の負担軽減策、経済的負担やそのほかの負担軽減もそうですが、そういうことをしていくことによって、子育て世代が大山町に流入してくると、あるいは1回ちょっと米子に出たけどまた戻ってくるわというような人が増えているからこそ、この子育て世帯の層が厚くなって、子供たちの出生数自体は爆発的に伸びてないけれども、その後の小学校入学までの6年間とかで戻ってきたり、あるいは小学校までに戻ってきたりというような家庭が増えている状況にあります。

そういった状況ですので、どんどんどんどん減って行ってしまって、中山地区の子供たち、先々いなくなるんじゃないかということではなくて、今の子育て支援策等を継続しながらも、あと中山地区で課題なのは、ナスパルタウンも今年度3区画が売れまして、残り5区画ということになっておりますので、次の民間の宅地開発がなければ行政のほうで宅地開発もしていかなければいけないと、早ければもう来年度にはそういうこともしなければいけないのかなというふうに思っておりますが、そういうことも踏まえて、中山地区全体の子供の数が著しく減っていかないように、今後も安定的に学校等が運営していけるように、地域が存続できるように取り組んでいきたいというふうに思っています。

○議員（10番 近藤 大介君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 近藤議員、あと質問時間が、残時間が1分ちょっとですので、よろしく願います。

○議員（10番 近藤 大介君） はい。

繰り返し言いますが、若干子供が増えているというのは、ナスパルで転入が増えているということであって、ナスパル、3世代同居が多いような地域ではないので、ナスパルの子供、もう多分増えないと思いますよ。どんどんこれから減っていきます。そこ、しっかり見てほしいし、地域のやっぱり活性化をするのに、中山の窓口課あたりにまちづくりを支援する機能を持たせて、自主組織や地域住民と連携しながら、中山地域のまちづくりを進めていく。私は大山でも大山支所の総合窓口室を中心にそういう取組があってもいいと思うんですけども、そういう施策が必要じゃないかと思いますが、最後に町長の御認識をお聞きします。

○議長（杉谷 洋一君） あと20秒ほどですので、20秒で、町長、答弁。20秒。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 町長。

○町長（竹口 大紀君） 近藤議員と協力してしっかり今後も頑張っていきたいというふうに思っています。

○議員（10番 近藤 大介君） 近藤議員じゃなくて、まちづくり、支所をもっと活性化させなきゃいけないと思いますよ。

終わります。

○議長（杉谷 洋一君） これで近藤議員の一般質問を終わります。

○議長（杉谷 洋一君） ここで休憩といたします。再開は2時30分とします。

午後2時17分休憩

午後2時30分再開

○議長（杉谷 洋一君） では、再開します。

次に、9番、野口昌作議員。

○議員（9番 野口 昌作君） 私もマスクを外させていただきますので、よろしくお願いいたします。

9番、野口でございますが、今日は2問について質問いたしますが、1問目につきましては、さきの大原議員の質問に対してある程度の回答が出たという捉え方の中で、また時間が短くなるでないかなという具合に思ったりしますけれども、よろしくお願いいたします。

最初に、農家を救う農業経営収入保険に助成をとということでございます。

国の農業経営収入保険が実施されまして、加入者の経営の安定に寄与しているところでございますが、制度が始まったときに収入保険に助成をしないかということ町長に尋ねたことを思い出します。このときは町長は助成はしないというような答弁でございました。しかし、農業が盛んな町村の中では、北栄町等につきましては、加入促進に補助金が出されているような状況もあったりしますし、現在はそれからまた増えているんじゃないかなという具合に思っているところでございますけれども、我が大山町はGI登録している大山ブロッコリー、それから肉質日本一の和牛等を誇る農業が展開されております。コロナ禍の影響でこの頃野菜や花の価格が低迷しておりまして、野菜も本当に5年に1回の低価格でないかというようなことが言われておりますけれども、このような状況の中で、今後、どれだけ農業者を困窮させることになるかということで、非常に私も心配しております。

農業者が今のコロナ禍の中で少しでも生活に安心感を感じるには、所得の確実性であると思っております。所得が確実に得られるということが一番大切であると思ったりしておりますが、農業に関しまして、所得のことでお話ししますと、もう一つ、さっき近藤議員のほうが中山地区の活性化ということで一般質問されましたが、いわゆる活性化とは、私の思うもんで、やっぱり人口、昔は農業人口、農村地帯でございましたが、非常に人口が多くてにぎやかでございました。私のところも運動会をしたりとか、盆踊りをしたりとかやっておりましたけれども、運動会もなかなかできんようになった

でないかというような話とかあつたりしますので、そういうような、昔のようにやっぱり人口が増加といいますか、ある程度の人口がいると。それが今、減少しているわけですが、減少するということはなぜかといえば、やっぱり生活するだけの所得が上がっていかない、生活する状態になってこないというようなことから人口が減少している。やっぱり生活するきちんとした基盤がなければ人口が減ってくる。そこに住めないわけですから。というようなことが起きてくる。やっぱりそれを確実に所得が上がる、ここで働けば生活は十分できるんだというような状況をつくるのが一番大切でなかろうかという具合に思ったりするわけですが、これには、中山地区も農業地帯でございますし、大山町そのものが農業を基幹産業としております。そういうことで、農業収入に対して収入保険に入っておけば確実なんだと、農業収入保険は、その経営している人が病気で全然農作業ができなかった、農業収入がゼロというようなときでも出るわけでございます。病気になったときでも保険は出るというようなことがあつたりしますし、それから、もし大雪の災害でもあって、ハウスがめげてしまったとか作付が遅れたというようなことで、いわゆる見込んだ収入よりも低かったら保険が出てくるということでございます。非常に農業者として頑張る農業収入を上げていくのに当たって心強い保険でございます、これについて、ぜひ補助するべきだというようなことを考えておるわけですが、それでこのことを、私は助成をということを言っておるわけですが、さきの大原議員の質問に対して実施するというような答弁がございましたので、これを実施されるということになりまして、私も安堵しているところでございますけれども、まず第1点は、これについての質問でございます。この助成をどういう具合に考えているかということをお願いいたします。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） 対策が取られておりますので、マスクを外させていただきます。

野口昌作議員の1点目の農家を救う農業経営収入保険に助成をとの御質問につきましてお答えいたします。

収入保険の助成につきましては、大原議員の一般質問で答弁したとおり、来年度実施に向けて検討しているところでございます。

以上で答弁とさせていただきます。

○議員（9番 野口 昌作君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 野口議員。

○議員（9番 野口 昌作君） 答弁で、助成をやっていくということでございまして、非常に私の意に沿った回答で、うれしく思うわけですが、この助成を考えておられるということで、この助成の仕方というものをどのような方法を取られるんだろうかなと、まだどうということまでは考えておられないかもしれませんが、率でいくとか定額でいくとかというような考え方はどうですか。お尋ねいたします。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

この収入保険に関しては、昨年取組が始まったという野口議員の御指摘もありますけれども、始まって、状況をいろいろ見てきております。その時点では、未来永劫全くしないというような回答をしたつもりはありませんが、ちょっと議事録を見ておりませんが、その時点では特に考えていないということでお答えをさせていただきましたが、状況を見ますと、やっぱり大山町は農業町でありますので、県内の自治体でも掛金の総額等もトップクラスであります。大山町としては、こういったところへの加入促進も含めてやっていきたいというふうに思っております。ここは野口議員が提案いただいておりますように、ほかの周りの市町村のやり方を見ながら、大山町に合ったやり方を模索していきたいというふうに考えておりますが、何分これも来年度の当初予算でのせるのは、改選期でありますので難しく、どういう表現をしたらいいか、昼休憩のうちにちょっといろいろ協議をしとったんですけれども、現時点での町の方針としては来年度取り組む考えでおります。以上です。

○議員（9番 野口 昌作君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 野口議員。

○議員（9番 野口 昌作君） 町長の答弁を聞きますに、なかなか、やり方等についてはこれからということでございます。そういうことで、検討いただいて、できるだけ農家の意に沿ったようなやり方でやっていただきたいなという具合に思ったりしますということですね。

なら、次に移させていただきます。第2問目といたしまして、交通安全に関する道路標示の点検と再表示をとということでございます。

交通事故はいつ起こるか分からない状態でございますが、事故を防ぐために道路標識とか道路標示があるわけでございますが、最近、この道路標示が薄くなって見えないような状態をよく目にいたします。交通事故をなくするために、このことについてどのように考えておられるか、どのような対応を思っておられるかということをお尋ねするわけでございますけれども、道路標示につきましては、さきの野口俊明議員の中で横断歩道のというような話もございましたが、やっぱりそういう消えかけているようなところは、横断歩道等についても標示が薄くなってしまっている、見えないような状態になっているというようなところも目立ったりしますので、この点についてお尋ねいたします。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） 野口議員の交通安全に関する道路標示の点検と再表示をとの御質問にお答えいたします。

道路標識及び道路標示は、鳥取県公安委員会が管理するものと町や県などの道路管理

者が管理するものに分かれており、劣化標示の再整備もそれぞれの管理下で行うことを基本としております。実際の実務では、地元要望等を端緒として、町、県、警察等が現地確認し、協議の上、管理者が修繕等の必要性を判断するという流れで対応しております。

最近、道路標示が薄くなって見えないような状態をよく目にする、交通事故をなくするため、このことについてどのように考えているかとの御質問であります。これまでも地元要望、関係機関からの報告や道路点検パトロールによって劣化標示が存在することは認識しており、その都度、関係機関と共に必要に応じて再整備を実施してきております。今後も要望に対して必要なものについては当然に整備を進めていく方針であります。

以上で答弁とさせていただきます。

○議員（9番 野口 昌作君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 野口議員。

○議員（9番 野口 昌作君） 今、道路標示については、町と県と、それから管理者というようなこと、警察なんかも一緒ですか、というような話でございましたけれども、それで、地元要望を受けてやる場合とか、点検パトロールをしてやる場合とかがあるということでございますけれども、現在進めておられる中で、地元要望とパトロールで、どのような割合で標示を修正なり点検して直しておられるかということですね。要望というのは、恐らく地元要望は部落のほうから出たりだという具合に思ったりしますが、地元から出る割合というのはどの程度ございますか、直しておられる中で、どうですか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） 担当からお答えいたします。

○企画課長（源光 靖君） 議長、企画課長。

○議長（杉谷 洋一君） 源光企画課長。

○企画課長（源光 靖君） それでは、企画課のほうからは、交通安全の部分についてですけれども、地元のほうからの要望については、年間大体二、三件程度、今いただいている状況です。年によって違いますけれども。それに応じて、その年に修繕にすぐ向かえるものもございますし、または数年かけて直すということで、ちょっとすぐに向かえないものもございます。地元要望に対しての対応については以上です。

○議員（9番 野口 昌作君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 野口議員。

○議員（9番 野口 昌作君） 今聞きましたに、地元要望は二、三件だというようなことでございますけれども、やっぱり地元がこういう要望を出していくということは、地元の方が交通安全意識を高くする一つになるという具合に思うわけでございまして、区長会なんかでは恐らくこういうようなことでもあったら要望してください、出してくだ

さいというようなことが言われてないでないかと、区長会なんかでそういうような説明はされていないでないかと思えますけれども、その点はどうか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） 担当からお答えいたします。

○企画課長（源光 靖君） 議長、企画課長。

○議長（杉谷 洋一君） 源光企画課長。

○企画課長（源光 靖君） 現在、最終区長会または当初の区長会等でそのような要望について出してくださいということで毎年お願いしていることは、今のところございません。

○議員（9番 野口 昌作君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 野口議員。

○議員（9番 野口 昌作君） ないということでございます。私も想像しておったように、ないとは思ったところですが、やっぱり地元もそういうようなことを町のほうに言って、そして自分たちの環境をよくするというようなことをやることによって、地元のほうも安全意識というものは高くなります。私なんかも部落のほうで道路標示を描いたりしておりますけれども、やっぱりそういうこともあると思いますので、ぜひ区長会等でも、年末の区長会はもう終わったと思えますけれども、今度は新年の区長会があると思えますけれども、やっぱりそういう中で、いろいろな要望なりについてできるだけ応えられるような状況をつくっていただきたいなという具合に思ったりするところがございます。

そのことが一つと、それから、今の道路標示についての答弁では、積極的にやっていくというようなことの回答はございません。そういう中で、道路パトロールなり、地元要望についてやっているんだと、そういう状態だというようなことでございますけれども、やっぱりもっと積極的にやっていくような方向を示していただきたいなという具合に思うわけでございますが、この点はどうか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

基本的には積極的にやっていくということで考えております。やっぱり要望等を基にしてやる部分もありますし、こちらが見つけてやっていくものもありますし、いろんなやり方があります。何かそういうものが、例えば劣化標示があっても放置しておくということはありませんので、引き続き対応していきたいというふうに思っております。

○議員（9番 野口 昌作君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 野口議員。

○議員（9番 野口 昌作君） そういうようなことでございますが、区長会の対応とい

うようなことは、今の話の中ではどういう具合に考えられましたか。

○副町長（小谷 章君） 議長、副町長。

○議長（杉谷 洋一君） 小谷副町長。

○副町長（小谷 章君） 少し補足も含めてでございますけれども、先ほど企画課長のほうが答えましたのが交通安全の部分になります。実際に集落のほうからも、いわゆる国道であるとか県道、町道に関する部分の要望等も実際には上がってきておりますので、その都度、先ほど町長も答弁いたしましたけれども、関係機関で現地を見てといったような対応もさせていただいているところでございます。ですので、実際に集落のほうからも、先ほど企画課長のほうから二、三件ということもありましたけれども、それ以上に意見等は上がってきております。改めて要望等については町のほうに上げていただきたいということはまた区長会のほうでもお話をさせていただこうと思います。

○議員（9番 野口 昌作君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 野口議員。

○議員（9番 野口 昌作君） 今も、最初からですが、県とか町とか国とかのところで標示するんだということでございますけれども、町としての、町の対応というものは、町道だけとか、そういうような考え方はどういう具合に持っておられますか。町の対応はどうですか。

○副町長（小谷 章君） 議長、副町長。

○議長（杉谷 洋一君） 小谷副町長。

○副町長（小谷 章君） 町の対応ということでございますけれども、実際に要望いただいたものについて、また、職員のほうが確認をして対応するといった案件もありますけれども、それぞれ実際に現場を見て、必要な箇所については積極的に対応していているというのが、いわゆる町管轄の部分についてはそうでございますし、県や国の管轄のものについては、それをまた伝えて、実際に現場のほうにも見ていただいて対応していただいているという状況です。

○議員（9番 野口 昌作君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 野口議員。

○議員（9番 野口 昌作君） これで質問を終わります。

○議長（杉谷 洋一君） これで野口昌作議員の一般質問を終わります。

○議長（杉谷 洋一君） 質問時間も短かったものですので、休憩してちょっと場内整理をしたいと思います。5分間休憩で……。そうか。ちょうど悪い時間だな。2分でええな。2分はいけんか。2分でもええな。じゃあ2分間休憩させてもらって、2時55分といたします、再開を。

午後2時53分休憩

午後 2 時 5 5 分再開

○議長（杉谷 洋一君） 時間になりましたので再開いたします。

次に、13番、岡田聡議員。

○議員（13番 岡田 聡君） ソーシャルディスタンスが保たれているということで、私もマスクを外して質問いたします。

2問通告しております。通告文を読み上げて質問いたします。

1、来年度予算編成方針は。任期満了による改選を控えての予算編成ではございますが、編成方針をただします。

(1)重要課題は人口減少対策と考えますが、どうでしょうか。

(2)令和2年度までの事業の成果等を検証し、見直しなど必要と考えますが、どうでしょうか。

(3)新型コロナウイルス感染対策の財源への影響はどうでしょうか。

(4)例年と異なり、新型コロナウイルス感染対策関連予算確保は。

(5)税収減が予想される状況で、財源確保の見通しあるいは対策はどうでしょうか。お願いします。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） 対策が取られておりますので、私もマスクを外して答弁させていただきます。

岡田議員の1問目、来年度予算編成方針はについてお答えいたします。

議員御指摘のとおり、改選期を迎えるため、来年度の当初予算は政策的経費を原則計上しない骨格予算として編成するよう指示を出しております。したがって、政策面での答弁は十分なものにはならないかもしれませんが、御了承いただきたいと思います。

1点目、重要課題は人口増加対策と考えるがどうかということですが、人口増加対策は当然重要な課題だと思いますので、大山町にお住まいの方々が住んでよかった、ずっと住み続けたいと思えるまちづくりを実践していくことが重要であると考えています。

2点目、令和2年度までの事業成果等の検証と見直しについてであります。これまでも事務事業評価は毎年行っており、また、今年度は外部行政評価も取り入れ、新たな視点から様々な御意見をいただいたところであります。

3点目、4点目の新型コロナウイルス感染症対策の財源への影響と予算確保についてですが、現在、予算編成の作業中であり、正確にお答えできる段階ではありませんが、学校や公共施設、スクールバス等の消毒作業は引き続き必要になりますので、少なからず予算編成に影響が出ています。しかし、国は、新型コロナウイルス感染症対策に係る経費は通常分とは別枠で予算措置する方向で動いているようですので、今後予定されている令和2年度の第3次補正や来年度当初予算を注視しながら、必要な対策を講じていきたいと考えています。



5点目の税収減が予想されるが、財源確保の見通しや対策はとのことですが、まず、制度的な税収減としては、新型コロナウイルス感染症により影響を受けた中小事業者等への固定資産税の減額がありますが、これについては減収補填特別交付金が交付されるため、大きな影響はないものと予想しています。

また、国の概算要求の段階では、その他の税収減も見込んだ上で、地方交付税と臨時財政対策債を合わせた実質的な交付税を3.3兆円の増としていますので、ある程度の財源は確保できるものと見込んでおります。

以上で答弁とさせていただきます。

○教育長（鷺見 寛幸君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 鷺見教育長。

○教育長（鷺見 寛幸君） 私もマスクを外しての答弁とさせていただきます。

岡田議員の来年度予算編成方針はとの御質問については、町長が答弁したとおりでございます。

以上で答弁とさせていただきます。

○議員（13番 岡田 聡君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 岡田議員。

○議員（13番 岡田 聡君） 令和元年度決算に係る財政状況の数値の中で、大山町の経常収支比率は県内でも高めに位置しておりますが、これへの対策、何か考えておられますかということをお聞きしたいんですけども、県内の西部の二、三の町では、結構この経常収支比率改善のために、町長自ら努力されて、数値を下げているような、意識して財政改革を行っているような感じがいたしますが、人件費や物件費、維持補修費、上がる要素のものばかりですが、何かこれ、経常収支比率を下げるために新年度はこうしなければならぬというようなことがございますでしょうか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

細かい話は抜きにしても、経常収支比率が高いというのは、当然大山町だけの課題ではなくて、財政力の弱い地方自治体の全体の課題であります。これは依存財源に頼っている自治体ほど当然高止まりする傾向にあるわけで、そもそもの税制あるいは税財源の仕組み等を変えていかなければ、なかなか改善レベルでは難しいかなと思いますが、少しでもそんな中でも経常収支比率が下がるようにというのは努力をしているところであります。引き続き取り組んでまいりたいというふうに思っています。

○議長（杉谷 洋一君） 岡田議員。

○議員（13番 岡田 聡君） 1点目の御答弁の中で、人口の増加対策、減少対策、どっち言ったほうがいいのか、減少するのを防ぐ対策ということですけども、重要な課題ということで、住民の皆さんが住んでよかった、ずっと住み続けたいと思えるまちづ

くり、これが一番根本になろうかと思えますけども、具体的にこれまでの政策を続けられるのか、何か新しいもの、ちょっと改選前になかなか御答弁難しいかもしれません。何かこういうことをもっとするべきというようなことがございましたらお願いいたします。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） これから先の話というのはなかなかしにくいところがありますが、やっぱり実感としては、人口減少対策、様々なところに効いてきているというところがありますが、別に子育て支援策だけをやっているわけではなくて、幅広く全世代向けにやっておりますし、産業も幅広い産業に向けていろいろ支援策だとか、あるいは売上げや所得が向上するように取り組んでいるところでもあります。そういった全体的な取組が最終的に人口減少対策になっているものというふうに考えておりますが、財源に限りもありますので、しっかり効果を見極めながら制度をつくり変えたりとか新たなものをしたりということでも対応していきたいなというふうに思っています。

○議長（杉谷 洋一君） 岡田議員。

○議員（13番 岡田 聡君） 財源確保の一番の近道は、昨今はふるさと納税を増やすことが一番だろうと思えますけども、自主財源を増やすということで、東川町なんかをやっておりますが、ふるさと納税とは別に株主制度とかいうのを始めていますね。いろいろテーマを設けて、町外の方、県外の方がそれに投資していただければ、町内に招待したり、宿泊施設に泊まっていたり、観光してもらったりというような恩恵を与えるというようなことをやって、結構町外、県外の株主さんを増やしていますが、それでまた資金を集め、テーマとする事業、政策を進めていくというようなことをやっていらっしゃるんですけども、何かそういういい方法がないものかどうか。新年度ですので、なかなかお答えできないかもしれませんが、その点、何かありましたらお願いします。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） 新たな取組に関しては、御説明は難しいかと思えますが、現状の考え方としましては、ふるさと納税が、今、大山町でも増えておりますので、財源としては非常に貴重なものとなっております。この3年で倍近く、額で2億円以上増えてきておりますし、さらにはその経費率も下げるように国のほうから言われておまして、規制がありますので、実質の実入りは大分増えてきております。これはいただいて終わりということではなくて、それを目的に応じた使い道に使っていくことで大山町の発展に寄与するような施策をやっていくというのが寄附者の思いでありますので、そういった思いを大切にしながら今後も事業展開をしていきたいと思えます。

先ほど例示として北海道の東川町の話で、ふるさと納税を活用した、ちょっと正式な名前は忘れましたが、株主制度のような制度をやられていることは承知しております。

ふるさと納税で東川の株主になった方が泊まれるゲストハウスがあったりとかいうことで、その地域に訪れる人をふるさと納税で増やしていこうというような取組であります。大山町としましては、全く同じ制度をまねするというだけでもいいのかもしれませんが、観光資源たくさんありますし、大山町に訪れてもらって、ふるさと納税の例えば返礼品として、何か体験型、大山町内で消費していただくような形の、来ていただいて使っていただく形の返礼品の充実、こういったものも今後は必要ではないかなというふうに思います。

○議員（13番 岡田 聡君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 岡田議員。

○議員（13番 岡田 聡君） ぜひ拡充をしていただきたいと思います。教育長にお尋ねいたします。教育環境については、大型投資はほぼ終わったような感じがいたしておりますが、新たに小規模保育所ができて、それらの経費が、いろいろ運営費が増えるわけですけども、そのほかに何か特色ある教育ということで特に予算をとというようなことはございますでしょうか。

○教育長（鷺見 寛幸君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 鷺見教育長。

○教育長（鷺見 寛幸君） お答えいたします。

付け加えがあれば前田次長のほうからお話ししますが、特色あるということで、新たな教育環境というものについては、来年度、新たにということはありません。ただ、継続して行っておりますのが、学校のコンピューター関係、ICTの活用ができる環境の整備、そしてソフトウェアを導入するですとか、またそれを指導する人材の配置、そういったものを、GIGAスクール構想をさらに進めていくということがあります。この新型コロナの影響がいつまで続くのかということがはっきりしない状況でありながら、事によっては学校でのリモート授業ということも対応が考えられますし、リモート学習、また、家での一人一人の家庭学習の支援になるような活用も考えていかなければなりません。そういった新たな時代に対する予算ということも今現在考えておるところでございます。

○議長（杉谷 洋一君） 岡田議員。

○議員（13番 岡田 聡君） では、2問目に参ります。空き家活用状況は。

中心地域にはどんどん新築住宅が増えている状況でございますが、一方では、空き家の増加に歯止めがかからない状況でございます。空き家対策、特に活用促進の対策は万全でしょうか。先日、日本海新聞に投書された町民の方の提案を踏まえて質問いたします。

(1)町の空き家の状況はどうでしょうか。戸数は、状態は、この概略の比率をお願いいたします。また、利用状況はどうか。

(2)本町は、「空き家・空き地情報活用制度」という名称でございますが、先進的な自

治体では「空き家バンク」という制度で活用しています。内容の違いを認識していらっしゃるでしょうか。事業内容の見直しと名称変更を行ってはどうでしょうか。

(3)投書の受け売りでございますが、奥多摩町の若者用空き家バンクのような制度も追加してはどうでしょうか。

(4)空き家、空き地の寄附に対する考えはどうでしょうか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 竹口大紀町長。

○町長（竹口 大紀君） 岡田議員の空き家活用状況はとの御質問にお答えいたします。

まず、町の空き家の状況はどうかとの御質問ですが、議員お尋ねの空き家の戸数については、調査ができておりませんので、総数の把握ができておりません。また、空き家の状態ですが、よい、普通、悪いとの判断基準を持ちませんので、お答えしかねます。

しかし、本町のいわゆる空き家バンクの登録物件では、何らかの修繕が必要なものが一般的であり、修繕の程度は入居者の意向にも大きく左右されているのが現状です。

なお、空き家の利用状況については、本町の空き家バンクの例でありますと、入居希望者の条件に合致し、修繕費用が安価であるほど活用が進む傾向にあります。

次に、空き家バンク制度の内容の違いの認識についてのお尋ねですが、空き家バンク制度とは、空き家の賃貸または売買を希望する所有者の情報を収集し、これを活用したい者に紹介するものと認識しております。本町では、いわゆる空き家バンクを「空き家・空き地情報活用制度」という名称で行っておりますが、内容については同一のものであります。

続いて、奥多摩町の若者用空き家バンク制度を追加してはどうかとのことですが、奥多摩町では、要件別に3種類の空き家バンクを運用されており、その一つが議員御指摘の若者用空き家バンク制度であります。この制度は、35歳以下の単身者または50歳以下の子育て世帯等に限って、バンク登録物件を紹介するものです。本町においては、現在のところ、空き家バンク制度利用者を限定して運用するメリットを持ちませんので、現行の制度運用を行う考えであります。

また、空き家・空き地の寄附に対する考えはとのことですが、まず、民間のニーズがある物件については、民間同士でも取引をいただくことができるものと考えております。需要がない物件につきましては、町で寄附を受け付けても、その利活用は難しいと考えておりますし、併せて、御寄附いただける物件の基準づくりや物件の基準適合判断に要する費用負担の問題等の寄附採択上の公平性の観点、また、寄附いただいた物件に対し修繕費の負担や実際に利用いただけるかなどの効率性の観点からも、寄附受付については難しいものと考えております。

以上で答弁とさせていただきます。

○議員（13番 岡田 聡君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 岡田議員。

○議員（13番 岡田 聰君） 大山町未来につながる移住定住助成金事業（空き家活用事業）実施要綱の条文の中では「大山町空き地・空き家情報活用制度（以下「空き家バンク」という）」とありますが、いっそのこと大山町も「空き家バンク制度」と他の自治体のようにしてはどうでしょうか。

それから、現在、ホームページを見ますと、空き家登録が十四、五件ですかね、それから空き地が40件程度ございますが、これらに対する問合せ状況はどうでしょうか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） 担当からお答えいたします。

○企画課長（源光 靖君） 議長、企画課長。

○議長（杉谷 洋一君） 源光企画課長。

○企画課長（源光 靖君） まず、制度の名前についてのお問合せでございますが、こちらにつきましては、既に大山町ではこの情報活用制度という名前で定着してきているところがございます。ただ、全国的には空き家バンクという名前を使っておられるところが多いのも事実でして、統一ということは今のところは考えておりませんが、今後、統一したほうが良いという見解になれば、そのような検討も進めたいと思います。

また、問合せについてでございますが、今のところ大体年間で30件、40件ぐらいのお問合せをいただいているところです。今年度につきましても、コロナの状況ではございますが、お問合せをいただいている状況です。以上です。

○議長（杉谷 洋一君） 岡田議員。

○議員（13番 岡田 聰君） 町内の空き家戸数、全く把握できていないということでした。なかなか把握しても、それをどうするかということはございますが、例えば、持ち主の条件にもよるでしょうけども、状態のいいような空き家については町のほうから働きかけて登録していただく、地域の衰退を防ぐためにもそういうものも必要ではないかなという考えをしますが、奥多摩町なんかはどうして寄附を受けて、それを活用してうまくいっているのかなと、ちょっと疑問に思う点もございますが、寄附されたものについては、奥多摩町の場合は上限で200万円の助成をしております。これは寄附された方にですね。あと、活用できる物件となると、かなりいい物件でないとなかなか難しいのかなという考えをしますが、もうちょっと活用促進するためにも状態のいい物件を掘り起こして、町のほうで働きかけてはどうでしょうか。

それから、他の自治体の物件の情報を見ますと、間取りとか築年数、築何年とか、それから持ち主が幾らで売りたいとか、希望の売値、あるいは賃貸の場合は月3万幾ら欲しいと、そういう条件まできちっとホームページに載せています。こうしますと利用したいと思う人は非常に便利だろうと思いますが、そういう点はなかなか難しいでしょうか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） 担当からお答えいたします。

○企画課長（源光 靖君） 議長、企画課長。

○議長（杉谷 洋一君） 源光企画課長。

○企画課長（源光 靖君） まず、状態のよいものについての働きかけを町のほうからという御質問でございましたが、こちらにつきましては、町としては正直、そういうものでも譲られたいというような思いを持っておられるところがあれば、登録いただきたいのは実情でございますが、どうしてもこれは町のほうで強制してということはできませんので、例えば地区のほうでお知り合いの方にお声がけをいただいて、町のほうでそういう制度があるということを御紹介いただき、町のほうにつないでいただくというようなことがしていただけるということであれば、例えば町のほうから問合せを差し上げるということは可能かと思えます。

また、奥多摩町のことについてお問合せをいただきました。これがゼロ円で寄附を受け付けるというような制度がございますが、これがどうしてうまくいっているのかということのお問合せだったと思えますが、奥多摩町につきましては、立地条件で大都市圏に近いというような状況もございます。そういう状況ですので、例えば寄附を受けられた状況でも、すぐにまたそれを譲り渡せるニーズがあるというようなことが一つ大きな原因かと考えております。

それから、間取り等のホームページ等での公開についてのお問合せがございました。また、希望内容等の公開についてですが、こちらにつきましては、登録をいただくときに、必ずしも必須ではありませんが、ある程度把握は行っております。ただし、これについては、今のところそれをそのまま載せるということは、大山町としては、個人情報に当たるものと考えております。載せたほうがもしかすると契約につながるような情報もあるのかもしれませんが、大山町としては、全て一応建物の外観、それから基礎情報だけで、それに興味を持たれた方に直接お話を家主の方としていただいて、情報を交換いただくというようなことでの手続を取っております。以上です。

○議員（13番 岡田 聡君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 岡田議員。

○議員（13番 岡田 聡君） それから、この制度、名前は違うけども内容はほぼ同じということがございました。一部違うのは、米子市もそうですが、仲介の關係に専門業者を入れている。大山町の場合は町が貸したいほうと借りたいほう、売り方と買いたいほうをあっせんするというような形ですけども、それを多くの自治体は仲介業者、専門業者が入っていますけども、その点の違いをどう考えますか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

それぞれの自治体の実情に応じてそれぞれの自治体でやり方が違うものというふうに認識をしております。

また、岡田議員からあっせんというような話がありましたけれども、決して町としてはあっせんや仲介をしているということではなくて、情報提供で、売りたい人と買いたい人をつないでいるだけであります。宅建業法等にも引っかかってくるので、当然それは不動産の専門業者の分野であります。

ただ、今、全国的に地方自治体でこの空き家バンクが進んでいるというのは、不動産事業者はどうしても不動産ニーズが高いところ、地価が高いところに集中するというような傾向は全国的にもありまして、大山町にもほとんど不動産屋さんというのはありません。そういう状況で、賃貸物件や売買物件をスムーズに流通させるための仕組みが空き家バンクでありますので、それをどのように運用していくかということが今の地方自治体、全国的な悩みなのかなというふうに思っています。もう少し不動産の、かなり市場原理主義によって左右されるところがありますので、そこが何か緩和されるような措置が国のほうでもなされれば、何か新たな打開策等が見つかるのではないかなというふうには思っております。

○議員（13番 岡田 聡君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 岡田議員。

○議員（13番 岡田 聡君） 大山町の場合、別な制度で若者地域定着促進事業補助金というのがございますが、これも空き家・空き地利用の関係でございすけども、ただ、対象が、若い人がシェアハウスとかルームシェア、ゲストハウス、こういうものに居住する場合の、運営する場合の購入または賃借した場合の補助金ということで、上限500万円ということでございますが、狙いは結構、こういう事業がどんどん増えればいいとは思いますが、なかなか難しいと思いますけども、これの実績はどうでしょうか。

それと、これを若者用にもうちょっと範囲、シェアハウスだけじゃなくて、一般的なものにも広げるお考えはないでしょうか。若者対象として。条件を緩和して。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

利活用が進むように、空き家が少しでも減るように、有効な制度になるように今後も改善等は図っていきたいというふうに思っています。

○議員（13番 岡田 聡君） 実績があるか。これ、500万円の助成した。シェアハウスなんかの。これまでの実績はどうでしょうか。

○議長（杉谷 洋一君） いいですか、源光課長。いいですか。

源光企画課長。

○企画課長（源光 靖君） お答えいたします。

先ほどの若者地域定着促進事業でございますが、今のところこちらについては実績ございません。以上です。

○議長（杉谷 洋一君） 岡田議員。

○議員（13番 岡田 聡君） なかなかこれも活用は難しいと思いますので、もうちょっと条件を緩和して、利活用できるようなことは難しいでしょうかね。もう一度お願いいたします。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） 先ほどの答弁と同じになりますけれども、今後も利活用が進むように、制度は適宜見直しをしていきたいというふうに思っています。

○議長（杉谷 洋一君） 岡田議員。

○議員（13番 岡田 聡君） 終わります。

○議長（杉谷 洋一君） これで岡田議員の一般質問を終わります。

○議長（杉谷 洋一君） 再開は3時45分といたします。

午後3時32分休憩

午後3時45分再開

○議長（杉谷 洋一君） では、再開します。

次に、7番、米本隆記議員。

○議員（7番 米本 隆記君） 飛沫感染防止の距離が保たれてますので、マスクを外させていただきます。

私は今回、2問質問させていただきます。

まず最初に、農家に手だてはできないかと題しましてお聞きしたいと思います。

農家が翻弄された高収益作物次期作支援交付金は、先日、12月に入ってから、これでもまだ制度が変更されております。農家の中には、当初、駆けずり回って申請したにもかかわらず、交付対象とならなかった農家もあります。なぜなら、農林水産省が当初言っていたことと違った制度に変更したからにはほかありません。このように翻弄された農家に何かの手だてが必要ではないかと思いますが、町長のお考えはどうでしょうか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 竹口大紀町長。

○町長（竹口 大紀君） 米本議員御質問の高収益作物次期作支援交付金につきましては、議員がおっしゃるとおり、10月に大幅な運用の見直しが行われ、さらには見直しに対する苦情等により追加の見直しが行われるなど、国の対応も二転三転しております。

すみません。対策されておりますので、マスクを外させていただきます。

この運用の見直しにつきましては、私も憤慨しております、関係機関や近隣市町村



等と一緒に国に対し、再度検討していただくようお願いをしてきたところでございます。

翻弄された農家に何かの手当てをとということではありますが、そういった声があることも国に伝えており、今後も要望していきたいと考えております。

以上で答弁とさせていただきます。

○議員（7番 米本 隆記君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 米本議員。

○議員（7番 米本 隆記君） 実はこの高収益作物次期作支援交付金、これは私どもは次期作と言っておりますけど、これからはちょっと次期作ということで通させていただきますと思いますが、この次期作の説明は、7月から数回説明会がありまして、この事業に町内で258名が手挙げをされました。そしてこの締切りが8月20日というふうになっておりまして、その手挙げされた方々なんですけど、ところが、8月20日に締切りがありまして、12月12日に先ほど町長が言われたように制度の変更がありました。そして、この手挙げをされた285名に対しまして、10月28日にこの変更になったことの説明会がありましたが、実は私はこのときに、中四国農政局の方が来られて説明されたんですが、そのときにこういった用紙を出してくださいと言われてました。これには何て書いてあるか。高収益作物の請求をしますか、それとも取り下げますか、チェックをして名前を書いて出してくださいなんですよね。これは11月18日までに出してくださいということだったんです。そして、後からのまた見直しがあったのが、12月1日に見直しがあったんですね。私はこの28日のときに、この制度の手下げをされた方は、次、見直しがあったときには対象になりますかと聞いたんです。どういった答えだったのでしょうか。手下げをされましたから、もう対象になりません。そのためにどういったことが起きたか。これは農協のほうで調べたんですが、農協関係141名中、手下げをされた方が、この制度の中ではどういった制度になったかいうと、前年度の収入と今年の収入の差を支払いますと、ある一定期間の、その収入が昨年よりも減った人は申請してください、増えた方は申請できませんということがあったんです。ですから手下げをされた方が27名。ところが何かあって制度が変わったときのことありますから、取下げの申請も何にもしなかった方が34名。これは11月28日現在です。ええですか。そこなんですよ、問題は。町長、こういうふうに制度が変わって手下げをされませんでした方、手下げをしない未提出の方、こういった方々は次の見直しがあったときにこの制度には乗れない。町長、これどう思われますか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

ひどい制度だなと思います。

○議員（7番 米本 隆記君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 米本議員。

○議員（7番 米本 隆記君） そうなんです。すごいひどい制度なんです。それまでは、最初は、次期作、次に作られる面積に対しまして、1反、10アール当たり5万5,000円支払いますよという制度が昨年と今年の収入の差額だけをお支払いしますよということになりましたので、この対象になった方では町内でも1,000万からもらう方があったというふうに聞いておりますし、そういう方が昨年の収入と今年の収入の差ということになると、逆に言ったらもらえなくなる方もあるんですよ。ところが、ここでまた大笑いなんです。これは、どういいますか、利用権設定がしてないとその農地が耕作しているとみなされませんから、農家の方はこの利用権設定のためにあっちこっち農家の方々にお願いして回って、利用権設定を農業委員会に出されたんですね。その数がこのぐらいあったというふうに言われてます。やはりそこまで農家の方はこの農水省の制度改正に翻弄されております。

こういったことで、私が言いたいのは、ここの事務を執り行うのは、一応、役場の農林水産課が事務を任されております。農業再生協議会で事務を任されておりますよね。違いますかいね。そういったところがありますから、私はこの責任の一端は町にもあるのではないかというふうに考えるんですが、町長、どうでしょう。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

申請の受付等の事務は農業再生協議会のほうで受けております。事務局が農林水産課ですので、農林水産課が対応しておりますが、農業再生協議会が受けているものでございます。

○議員（7番 米本 隆記君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 米本議員。

○議員（7番 米本 隆記君） これ、農林水産課からちょっと資料をもらったんですけども、先ほど言いました285名中、申請の手下げをされた方が132名おられるというふうなことをちょっと資料的に委員会のほうで頂きました。やっぱり132名の方が最初に書類をいろいろとそろえて提出しました。これで大丈夫だなと思っていましたら、見直しによってどんでん返し。ここでやはり私は思うんですけど、農家というのは町の説明とか、再生協議会と言いながら、町の説明でいろいろと動いておられます。そして農業委員会、または借りている農家のほうにも出向いて行って、いろいろとお願いしておられます。ところが、お願いして回っている農家の方の中にはこの制度のことも御存じの方も多数おられるようでした。ですから利用権設定でお願いに行かれるときに、何がしかのお願いのためにお礼を持っていかれるということがあったようにも聞いております。そういうことで、やはり何か、農家のほうも時間と労力と何がしかを使いながらこれを、制度に乗っていくために動いておられました。やっぱりこういったところにつきまして、町としては何か手だてというのはできないのかということが今回の質問であ

りますが、町長、再度お聞きしたいんですが、何かこの辺のところでお考えいただくことはできませんでしょうか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

そういうところは大山町のみならず、全国的に出ている声であって、引き続き国のほうにきちんと対応するように要望していきたいというふうに思っています。

○議員（7番 米本 隆記君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 米本議員。

○議員（7番 米本 隆記君） 町長は要望をしていくと言われますけども、要望だけでは、翻弄された農家の方はそれだけかと思わないと思うんですよね。コロナではいろんなところに手だてを考えてやりますということをよく言われますけども、はっきり言って、これコロナではないんですけども、農家から見れば行政に振り回されたと思われても仕方がない一例だと思います。やはりこういったことに対しては、そういった何か交付対象になる農家の方じゃない、交付対象にならない132名の方には何かがあってもいいんじゃないかというふうに思うんですが、再度お聞きしたいと思います。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

私も米本議員と全く考えは同じでありますので、そういった声があることをしっかり国のほうに要望していきたいというふうに思っています。

○議員（7番 米本 隆記君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 米本議員。

○議員（7番 米本 隆記君） 町としては何か手だてというのは考えられるおつもりはないですか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） 国の制度でされていることに対して、市町村がその何か尻拭いをさせられるというのは制度として間違っているというふうに思います。国の制度の欠陥、あるいは制度が不完全なものであったから生じた混乱等に対しては、国が責任を持つべきであるというふうに思っておりますし、引き続きそのように国に意見を言っていくというふうに思っています。

○議員（7番 米本 隆記君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 米本議員。

○議員（7番 米本 隆記君） どうも町長は、国のほうには言っていくと言いながら、農家の翻弄されたことに対しては町は知らないよというスタンスだというふうに受け止

められるわけなんですけど、でも実際、国のことであろうが、やはり農業再生協議会という機関がやって、そしてそこに行政のほう関わっておられるということになれば、農家のほうから見れば、国、国と言っているけど、やはり行政がっていうふうになるのが常だというふうに思います。その辺りのところで私は申し上げているわけでございまして、一概に幾ら補償しろと、そういうことではありません。やはり町として何がしかを考えてほしいと言っていることでありまして、その辺のところはどうなんですか。再度お聞きしたいと思います。

○議長（杉谷 洋一君） 町長。

○町長（竹口 大紀君） 国の制度ですので、国が責任を持つというのは当然であります。私も農家の皆さんと同じぐらい強い怒りの気持ちを持って、県内の町村と力を合わせて、ほかの町でも困っているところがありましたので、力を合わせて国のほうにいろいろと要望活動して、それによってまた制度が変わって混乱をしたというところで、要望せんかったらよかったかなというふうに言われるとちょっと悲しいところでもありますけれども、国のほうも制度をいろいろ変えて、追加措置で救済できる範囲を広げてきたところでもあります。引き続き、そのように実害が発生しているような例があれば、具体的な内容等をしっかり国のほうに伝えて、救済措置等をするように要望していきたいというふうに思います。

○議員（7番 米本 隆記君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 米本議員。

○議員（7番 米本 隆記君） 実害はありますよ。農家は最初の制度設計されたものの説明会に来て、ちゃんと交付金を請求しようということで、あっちこっち動き回っておられますから、人を動かしておるんですよ、国のほうは。人を動かして、いろいろと費用を使ってやられているのに、それは国の責任ですから言われても、農家の方は本当にそう思いますかね。私は思わないと思います。農家から見れば、国といいますか、町が、職員がおれば、やっぱり町の事業というふうに考えるのが普通だと思います。その辺のところがありますから、今回こういったことを出させてもらいましたけども、どうも町長はその辺のところを理解されとらんというふうに思います。

国の事業だから国のほうに要望していきますと言われますけども、国のほうが、じゃあ本当にそれを要望として聞いてくれるのかどうなのか、これも確約はないわけですよ。そういったところで、本当に翻弄された農家というのは何のためにこれ動いたのか。最初からそれならしなかったという人が絶対あるんですよ。私も聞きました。手下げされた方でね。やはりそういったところが問題だと。この制度の中で。その翻弄された方々に何とかしてくれというのが私の思いだったんですけども、どうも町長はその辺が理解してもらえんというふうに感じております。最後にもう1回聞きます。どうですか。何か手だてしませんか。（「菅政権の責任だぞ。国の責任だ」と呼ぶ者あり）

○議長（杉谷 洋一君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

翻弄された農家の皆さんが大変苦勞されたというところで、私も国に対して非常に憤慨をしているところでありまして、10月以降、様々な要望の機会を捉えて国のほうに要望して、制度も変わってきたところであります。引き続き、農家の皆さんの声を聞きながら、国のほうでまだ対応すべきところをまとめて、国にきちんと対応するように町としても声を上げていきたいというふうに考えています。

○議員（7番 米本 隆記君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 米本議員。

○議員（7番 米本 隆記君） そもそも、また国のほうも、最初は250億ほどの予算だったのを12月に入ってからまた1,300億円を追加しまして、全体で1,500億ぐらいの事業になっておりますので、そここのところもきちっとその要望というのを通してもらいたいというふうに思ひまして、2問目に移らせていただきたいと思ひます。

成人式の実施はということでお聞きしたいと思ひますが、実はこの一般質問の通告の締切りが12月2日になっておりました。しかし、この12月定例会の初日、またそして昨日と、そして昨日のその後のまた見直しと、3回にわたって変更がありましたので少し内容が違ってきましたけども、当初の通告を読まさせていただきます。

本人にとって人生で一度の晴れ舞台と言って間違いのない成人式です。大人の仲間に入る覚悟と自覚を実感する大切な式であると思ひます。そのような式典に参加したいという県外在住の町内出身者の方もおられると保護者の多くの方から聞きました。保護者の方は、参加させたいが、当人は県外からの帰省者という思ひもあるようで、悩んでおられます。町の対応はどうなってますか。あと半月後に迫っております。町長、教育長のお考えをお聞きしたいと思ひます。

○教育長（鷺見 寛幸君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 鷺見教育長。

○教育長（鷺見 寛幸君） では、マスクを外させていただいて、答弁させていただきます。

米本議員からの成人式の実施はとの御質問にお答えいたします。

本町では、成人式が新成人の皆さんにとって一生に一度の行事であることに鑑み、コロナ禍の中ではありますが、予定どおり1月3日に開催することを早い段階で決め、準備を進めてきました。今回の成人式は、新型コロナウイルス対策として、密接状態にならないよう、会場を名和農業者トレーニングセンターアリーナに変更して、席の間隔を広げ、適度な換気、新成人以外の来場者の制限、マスクの着用、受付のスムーズ化、問診票の提出や検温の実施、式典、写真撮影、交流会といった一連全体での時間短縮化などの対応を考えています。また、参加される新成人には、感染防止のため、2週間前からは三密を避け、感染予防に十分留意した生活を送っていただくこと、帰省される方にはできる限り1週間前には帰省して体調を観察していただくよう、併せて要請しており

ます。

参加者の約半数の方が県外から帰省して参加される見込みです。その中には家族への感染を心配される方もあろうかと思えます。教育委員会としては、可能な限り不要不急な外出や会食を避け、三密を避ける行動を徹底し、消毒なども適切に行うなどの対応をしていただいた上で、新成人として、大人として、帰省についても成人式への参加についても、御自身の体調の推移などを見ながら責任ある適切な判断を行っていただくことに委ねたいと考えております。

以上で答弁とさせていただきます。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 竹口大紀町長。

○町長（竹口 大紀君） 米本議員の成人式の実施はとの御質問については、教育長の答弁のとおりですが、帰省される新成人やその御家族等に安心していただくため、任意のPCR検査等に対して助成をするように計画しております。

以上で答弁とさせていただきます。

○議員（7番 米本 隆記君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 米本議員。

○議員（7番 米本 隆記君） そうですね。昨日、あまり物を言わない議員が補助率のことを言いましたら、即座に補助率を2分の1を消して、上限1万5,000円ということに変更されましたね。本当にいいことだと思います。

そこでお聞きしたいんですが、このPCR検査についてお聞きしたいんですが、今回、多分PCR検査を入れるというふうになったというのも、常任委員会のほうで言われたということもありますし、それから、私は思うんですけど、南部町が、11月だったかな、新聞で出ていたというふうに思いますし、それから、若桜が12月の初めに出了たよね。若桜町のほうが。そして、私が聞いたところでは、日吉津村が12月の定例議会の中で決められたというふうにちょっと耳にしたんですが、そういったところで、県の西部のほうであちこちからそういったPCR検査やるよということが耳に入ったと思うんです。常任委員会のほうからもあったと思うので、これをやろうということはいいんですけども、実はこれ、ちょっとお聞きしたいんです。教育委員会のほうに聞きたいんですが、最初に案内を出されたときに、10月20日に出されておるんですけど、このときに参加希望の意思確認されてますね。そのときに実際に、このPCR検査ということで、一步踏み込んで募集をされてたら、もっと参加者増えたんじゃないかなというところもちょっと考えたところあるんですが、その辺り、どうだったんでしょう。実は、資料をもらいましたのは12月2日現在ということで、あれから増えてまして、申込み漏れの方の追加の申込みもあるというふうにしておられますので、その辺のところは人数的にどうなったのでしょうか。お聞きしたいと思えます。

○教育長（鷲見 寛幸君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 鷺見教育長。

○教育長（鷺見 寛幸君） 詳細については担当課がお答えいたします。

○社会教育課長（西尾 秀道君） 議長、社会教育課長。

○議長（杉谷 洋一君） 西尾社会教育課長。

○社会教育課長（西尾 秀道君） 質問にお答えします。

現在、希望者は124名というところになっております。以上です。

○議員（7番 米本 隆記君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 米本議員。

○議員（7番 米本 隆記君） それで、昨日の説明のときに言われたのが、若桜、南部、江府、日吉津は参加者の人数がある程度少ないからできるんだということを言われとったんですけども、実は、よう考えてみたら、人口で見ると、本町は1万6,000人ぐらいですね。ほんで160人の対象者ですよ。南部町を見ると、1万1,500ぐらいかな。ということは、115人ということになると、50人ほど、3分の2ですよ。そこはもう受けてもらえるということだったので、だからもっと早い段階でこのPCR検査されればよかったかなと思うんですけど、その辺り、参加希望を確認されたときにそういったPCR検査があったらというようなことを言われるところというのはなかったんでしょうか。どうでしょう。

○教育長（鷺見 寛幸君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 鷺見教育長。

○教育長（鷺見 寛幸君） 具体的な流れについては担当課がお答えいたします。

○社会教育課長（西尾 秀道君） 議長、社会教育課長。

○議長（杉谷 洋一君） 西尾社会教育課長。

○社会教育課長（西尾 秀道君） お答えします。

その頃は、PCRというよりは、抗原検査を検討しておられるというところは伺っております。その中で、PCR検査もしくは抗原検査ということにつきまして、本町でも調べて対応を考えましたけども、成人式の開催日が1月3日のところと南部町のように1月10日のところでは、平日を挟むという期間が違いますし、そこのところを加味しまして、あと、検査キットを送付した場合に、確実にそれが検査が可能な状態で返送されてくるのか、それが本町の場合、1月3日ということですので、確実にという部分に懸念がございました。検体を取られて少し置かれて発送された場合、48時間以内の検査にならないという場合もございますし、年末に近くされた場合には、検体を採取した上で送付されても検査に間に合わないということも想定されますので、本人は取ったということでありまして、義務化した場合、式には参加していただけないというような残念な事態も起こり得るということをいろいろ検討した上で、本町としては、PCR検査等については行わず、先ほど教育長が申し上げましたけども、基本的な生活を送っていただくというところを重視して判断をいただくということに方針として

持った次第です。以上です。

○議員（7番 米本 隆記君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 米本議員。

○議員（7番 米本 隆記君） 大体希望を取りまとめられるというふうな状況は分かりました。

今回、もう1回お聞きしたいのは、米子のほうの民間企業でされる方もあるかというふうに思いますが、ここなんかが、昨日もちょっと言いましたけど、検体を集めて48時間以内にするとということで、前日に検体したものを翌日に集めて、その日のうちに検査するというシステムを取っておられるようですが、検体を集めるのに、役場のほうで一括してというふうな考え方というのは、そこの業者というか、民間企業のものになるかというふうに思うんですが、そういった考え方というのはお持ちじゃないですか。

○社会教育課長（西尾 秀道君） 議長、社会教育課長。

○議長（杉谷 洋一君） 西尾社会教育課長。

○社会教育課長（西尾 秀道君） その件につきましても内部では検討、協議いたしました。ですけれども、設定した段階で、間に合う、間に合わないということがございまして、結果としては、1月10日開催のところは確かにそういうふうにしておられますけれども、本町につきましては、少し難しいということで考えた次第です。

○議員（7番 米本 隆記君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 米本議員。

○議員（7番 米本 隆記君） 1月3日開催で本町はやりますけれども、例えば帰ってこられたときに検査して、年末に最後にここで検査してくださいというようなやり方もあったんじゃないかなというふうに思うんですよね。どっちにしても、受けられる方、どうしても12月の年末から年始は休みですから、どこの機関もやってくれないので、それまでにされるわけですから、どっかでやっぱり区切って、町が検体を集めて、ここに入れてくださいと言ったほうが、逆に言ったら、それを個人個人でその検体を、私の認識ではその検体を個人個人のところに取りには来てくれないようなことだと思うんですが、これは取りに来てもらえるんですか、そこの企業は。その辺のところは確認されてますか。

○議長（杉谷 洋一君） 西尾社会教育課長。

○社会教育課長（西尾 秀道君） そういうやり方を行う場合には、基本的にキットを役場なりが持って、そこに来ていただき、検体を取って、役場職員が直接検査機関に持ち込むというやり方になるというふうに考えます。

○議員（7番 米本 隆記君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 米本議員。

○議員（7番 米本 隆記君） そうすれば、例えばぎりぎりじゃなくても、何だ、仕事納めが28日ですかいね、役場のほうは。28ですよ。ですから28日の午前中に持



ってきてくださいというふうにして、午後からでも届けることはできるんですよ。できますよね。向こうのほうの受けてくれるところがその日に業務をしてくれるということが大前提ですが、もしできなければ27日に検体を持ってきてください、28日に送りますでもできるわけですよ。そういったところは、そういった民間企業との話合いというのはされましたか。まだされてませんか。

○社会教育課長（西尾 秀道君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 西尾社会教育課長。

○社会教育課長（西尾 秀道君） 手段につきましては、民間業者、具体的に言いますと鳥大ベンチャーの企業ですけども、いろいろと相談をさせていただきましたけども、本町としましては、その日だけという限りはなかなか難しいという判断であります。

それと、一番は、県内は今の状況からしますとかなり安全な状態になっております。具体的には県外から帰ってこられるということについての懸念、御本人さんも含めてですけども、今のやり方ですと、結局その部分については対策がないといえますか、県に帰ってきてからの検査になりますので、そこを踏まえますとどうなのかなというところも検討したところです。

○議員（7番 米本 隆記君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 米本議員。

○議員（7番 米本 隆記君） 一番私が懸念するというのは、悪いんですけど、ちょっと京阪神の方々に申し訳ないんですけど、すごい今、危ない状態といえますか、今、蔓延しているような状況があります。そういったところから帰ってこられるということになってくると、なおさら帰ってこられるその方々もすごい心配になると思うんですよ。万一自分が、今、よく言われますよね。テレビなんかでも報道でよく言われます。症状はなくてもひょっとしたら持っているかも分からないという方がいる。そういった方々が、心配される方というのもあるかと思うんですよ。それがこちらへ帰ってこられたときにぽんとそういった、何ですか、検査ができて、帰ってきて検査したらやっぱり大丈夫だったということだったら安心して式にも出てもらえる。そのときはよくても、その後きちっと注意してもらわないと、そこでまた感染されることもあるかと思えますけども、でも帰ってこられたときに、自分がかかってなかったな、コロナウイルスにかかってなかったなということは実感されるわけですから、ある程度の安心感を持って皆さんともお会いできるかというふうにするんですよ。やはりそういったところを考えたときに、これを個人じゃあ事業者さんのところに連絡取って、その検体キットを送ってもらってやれと言われたときに、それは本当に個人がどういうふうな手続でやるようになるんですか。そこへ持っていくんですか。取りに来てもらえるんですか。どうなんでしょう。その辺のところまでは、さっき話をされたということなんですけど、もうちょっと詳しいところをお聞きしたいと思いますけど、どうなんですか。

○社会教育課長（西尾 秀道君） 議長、社会教育課長。

○議長（杉谷 洋一君） 西尾社会教育課長。

○社会教育課長（西尾 秀道君） 行政が絡んでする場合につきましては、行政が一括で検査結果を受け取り、本人のほうには通知するという形になると思います。具体的に言いますと、先ほどの企業さんにおかれましては、個人での検査というのも対応はホームページで見る限りしていらっしゃると思いますので、それはやっていただけるというふうに考えております。以上です。

○議員（7番 米本 隆記君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 米本議員。

○議員（7番 米本 隆記君） じゃあ例えば、今、個人でもしていただけるということになってくると、その内容についてはきちっと参加される皆さんに分かりやすく説明をして、やり取りができるような状況はじゃあちゃんとつくって、連絡をするような状況はできているということなんですか。

○社会教育課長（西尾 秀道君） 議長、社会教育課長。

○議長（杉谷 洋一君） 西尾社会教育課長。

○社会教育課長（西尾 秀道君） お答えします。

現在、鳥取県のホームページ、コロナ対策のホームページには、自費での検査を、無症状の方に限るということなんですけども、できる検査機関というのが、6つの病院が紹介してございます。これにつきまして、それぞれ連絡を取りまして、成人式ということで帰ってこられた場合に検査を受けていただくということは可能かということの問合せはした上で、現在、作表をいたしまして、新成人の皆さんへの案内として入れ込みをさせていただくところでございます。ただ、やはり検査機関も、するとは書いてありますけども、1日4人であったり5人であったり、かなり人数というのは絞られておりますので、心配な面はございます。以上です。

○議員（7番 米本 隆記君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 米本議員。

○議員（7番 米本 隆記君） 私が調べた検査する機関では、1日最大で500検体はできるというふうになっているんですけど、1日4から5ですか。私の調べ方がちょっと間違っていたんでしょうか。どうでしょう。

○社会教育課長（西尾 秀道君） 議長、社会教育課長。

○議長（杉谷 洋一君） 西尾課長。

○社会教育課長（西尾 秀道君） すみません。説明がちょっと不足しておりました。

PCR検査を直接実施する機関はその6つでして、そこではやはり人数が1日に限られるということでございます。議員のおっしゃるところにつきましては、検査キットで、来客といいますか、じゃなくって、検査キットのやり取りで検査をするというのは1日500件等をされるということなんです。

○議員（7番 米本 隆記君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 米本議員。

○議員（7番 米本 隆記君） とにかくせっかく帰ってこられる子供さんが安心して式に出られるような状況をつくってあげるというのもやっぱり行政の仕事じゃないかというふうに思いますので、それが親御さんもやはり安心して子供さんを成人式に出席させられるというふうに思いますので、その辺りをきちっと対応していただきたいと思います。

そしてもう1点、最後にお聞きしたいんですが、抗原検査とPCR検査の違いというのも、一応そこではこういった違いがありますよということは本人さんは通知はされるようにしていますか。どうですか。

○社会教育課長（西尾 秀道君） 議長、社会教育課長。

○議長（杉谷 洋一君） 西尾課長。

○社会教育課長（西尾 秀道君） 申し訳ございませんが、PCR検査または抗原検査ということで、実際にPCR検査より抗原検査のほうが精度が落ちるといことはございますけども、そこについては、安心して帰っていただくという部分においては、その区分けということをお案内ということはおしてありません。

○議員（7番 米本 隆記君） 終わります。

○議長（杉谷 洋一君） これで米本隆記議員の一般質問を終わります。

---

○議長（杉谷 洋一君） 以上で本日の日程は終了しました。

次回は12月18日金曜日に本会議を再開します。定刻午前9時30分までに本議場に集合してください。

本日はこれで散会とします。御苦労さんでした。

午後4時25分散会

---